

平成21年度研究・教育活動報告

【人間文化学科】

Mark IRWIN

(1) 研究成果

論文

2009年8月 Irwin, Mark. Prosodic Size and Rendaku Immunity, *Journal of East Asian Linguistics* 18: 179-196.

(2) 教育, 地域連携等の活動

(担当授業名)

言語学演習 (英語史), 英語コミュニケーション上級, 英語コミュニケーション中級, 英語C (教養教育)

(公開講座)

「不埒な「ことば」たち - 教科書には載らない言語の生態学」のパート2「地域方言としての英語 - 教科書には載らない世界の英語入門」

相沢 直樹

(1) 研究成果

「三つの『その前夜』—— 明治期におけるツルゲーネフの翻訳と受容をめぐって ——」 <川戸道昭・榊原貴教 (編) 『図説翻訳文学総合事典 (全5巻)』 第5巻 日本における翻訳文学 (研究編), 大空社, 平成21年11月, 172 - 191頁

(2) 教育, 地域連携等の活動

基盤教育: ロシア語

専門教育: 欧米文化基礎, 欧米文化概論, 比較文学講義, ロシア文化購読, ロシア語学演習など

浅野 明

(1) 研究成果

・監修: M. ベネット他著 / 野下祥子訳 『戦闘技術の歴史 2 中世編』 (創元社, 2010年10月)

(2) 教育, 地域連携等の活動

・担当授業: 西洋中世の社会 (歴史学), 人間文化基礎演習, 西洋史概論

(一), 西洋史講義 (一), 西洋史演習 (一), 西洋史講読 (一)

・教員免許状更新講習 (8月5日)

・主張講義: 宮城県泉高等学校 (5月29日), 秋田県立角館高等学校 (11月20日)

(3) 平成21年度の研究・教育活動に関するコメント

教育活動については, 従来の担当授業に加えて, 前期には1年生向けの基礎演習を担当し, また後期には, 工学部において教養教育を担当した。高等学校の出張講義では, 西欧と日本の食文化を通

して、歴史を学ぶことの面白さについて講義した。研究活動の成果として挙げた監修本は、わが国ではほとんど類書がないこともあって、多くの読者に好評をもって迎えられており、続刊（近世編）もすでに刊行されている。

芦立 一郎

1, 研究成果 なし。

2, 教育, 地域連携等の活動

アジア文化論 アジア文化論演習 中国文学講義 中国語
NHK 山形文化センター講師

3, コメント

唐代後期の詩歌及び宋代、とくに男女愛情表現に関係する語彙の様相と構造について調査研究中です。

阿部 宏慈

(1) 研究成果

1) 論文

Koji ABE, Du systeme de la relecture chez Proust in *Marcel Proust 7, "Proust sans frontières 2"*, Minard, 2009, pp.185-204.

2) 翻訳

ミシェル・セール, 阿部宏慈訳『カルパッチョ 美学的探究』法政大学出版局, 2009年7月, 232頁 (翻訳と解説)

(2) 教育, 地域連携等の活動

教養教育外国語科目「フランス語」の授業を担当した。また、比較文化・表象文化論専修, 欧米文化論専修の授業と卒論指導をおこなった。

地域貢献の活動としては、山形国際ドキュメンタリー映画祭の理事として、10月の映画祭開催を中心に活動した。

山形新聞のコラム「偏愛映画」のリレー連載を担当したほか、映画祭に関する記事や書評を執筆した。

他に、9月12日には山形ボルダーク友好協会 / 山形市男女共同参画推進事業支援講演会, 10月31日 / 11月1日 放送大学山形学習センター面接授業で講師をつとめた。

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

日本フランス語フランス文学会東北支部大会を本学において開催し、ロシア文学中村唯史氏, ドイツ文学渡辺将尚氏, 表象文化論齊藤哲也氏とともに<声とテキスト>を主題としてシンポジウムをおこなった。これは相沢直樹氏を代表者とする科学研究費による共同研究の一環であり、分担者としては、両大戦間の音声メディアの発達と文学的テキストの関係性をめぐって研究を進めた。また、ドキュメンタリー映画における<アクチュアル>の主題による研究もまとめの段階に入る。

教育活動としては、むしろ基盤教育の実施体制の準備作業に力を注いだつもりである。

阿部 成樹

(1) 研究成果

「西洋美術と光」『応用物理』第 75 巻第 2 号, 2009 年, 173-174 頁

「フォシヨンと歴史」日仏美術学会ワークショップ「1920-30 年代の美術史家と美術批評家——

フランス美術史編纂の歴史研究試論 2」2009年12月19日、於日仏会館

「アンリ・フォション『かたちの生命』：その思索のエッセンスとコンテクスト」科研費研究会(研究代表者・加藤尚武)招待発表、2009年8月22日、於新潟大学サテライト施設

(2) 教育、地域貢献等の活動

担当授業:芸術文化概論、美学・芸術学特殊講義、表象文化講義、文化環境学(一)、芸術文化演習(一)(二)、芸術文化実習、人間文化入門総合講義、ヨーロッパ建築紀行(芸術)、フランス絵画史(芸術)

卒業論文指導:芸術文化論2名(ドガ、上村松園)

社会貢献他:山形大学附属博物館公開講座講師「背面の美:キスリング《背中を向ける裸婦》」2009年11月28日 於山形美術館;美術史学会篇『美術史』第169冊査読委員

(3) 平成21年度の研究、教育活動に関するコメント(200字以内) 相変わらず卒論指導は難しかった。

新宮 学

(1) 研究成果等

論文:新宮学「近世中国における皇城の成立」『都市と環境の歴史学』第4集 255-293頁、2009年5月

翻訳:新宮学「王剣英著:南京台城の今昔」『山形大学歴史・地理・人類学論集』11号 29-33頁 2010年3月

海外・国内調査:

2009年9月14日~9月25日 近世中国都城調査(南京・鳳陽・開封等)

2009年11月19日~24日 日本古代都城遺跡踏査(太宰府跡・怡土城・鞠智城)

2010年3月10~19日 中国史料調査(北京)

講演:新宮学「關於近世中国皇城の成立」2009年9月17日 南京大学歴史系・中国伝統文化研究院講座

(2) 教育、地域貢献等の活動

・当該年度における授業(担当授業名)

[学部] 東洋史概論(一)、東洋史講義(一)、東洋史演習(一)、東洋史講読(一)、人間文化基礎演習、北京の歴史(歴史学)、マルコ・ポーロの『東方見聞録』を読む(教養セミナー)、卒業論文指導、外国史概説(地域教育文化学部兼任)

[大学院] 東アジア近世史特論、東アジア近世史特別演習、東アジア近世史特別研究 地域貢献・学会活動

・模擬講義 宮城県仙台台東高等学校 2月12日

・教職免許状講習(高校地歴・中学社会)「東アジアからみた世界史」8月4日

(3) 当該年度の研究、教育活動に関するコメント

研究活動では、本年度より新宮を研究代表者とする基盤研究(B)「近世東アジアの都城および都城制についての比較史的総合研究」が採択され、連携研究者8名を加えた研究会を組織した。また引き続き基盤研究(B)「東アジア諸国における都城および都城制の比較を通じてみた日本古代宮都の通時的研究」(代表 橋本義則教授)に、連携研究者として参加した。

教育面では、中国中世史と中国近世史をテーマとする2名の学生の卒業論文作成を指導した。また中村准教授とともに、中国社会科学院考古研究所の董新林先生を迎えて遼代祖陵と上京についての学術講演会を開催した。

池田 光則

(2) 教育，地域貢献等の活動

(■) 担当授業

- ・学部専門教育科目：言語学概論（一），言語学概論（二），言語学演習，ラテン語初級，人間文化基礎演習
- ・教養教育科目：言語学概論（言語学），言語学とその周辺領域（言語学），英語
- ・大学院：言語学特論

(■) 出張講義等：秋田県立本荘高等学校（2009年7月8日），福島県立郡山高等学校（2009年11月19日），山形大学人文学部公開講座（2009年6月15日）

(■) 卒業論文指導テーマ

- ・流行語の傾向
- ・日本語の歌詞にみられるオノマトペについて
- ・疑問文における疑問の終助詞の有無について

磯野 暢祐

(2) 教育，地域貢献等の活動

- ・教養教育として，フランス語（前期）を週4コマ，フランス語（後期）を週4コマ，フランス語（前期）を週1コマ担当。
- ・専門教育として，言語学特殊講義・音声学（前期），言語学特殊講義・ロマンス語学（後期），フランス語学演習・中級（前期），フランス語文化購読（後期），欧米文化概論（前期）を担当。
- ・大学院では，本年度は受講生がなかった。

板垣 哲夫

(2) 教育，地域連携等の活動

文化環境学（一），日本史概論（二），日本史講義（二），日本史演習（二），日本史講読（二），福沢諭吉再考（歴史学），江戸時代とは何か（教養セミナー），日本近代現代史特論（大学院）

伊藤 豊

(1) 研究成果

- ・『同化』は悪か？ - 現代アメリカの移民問題に関する一考察 - ，『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』第6号，2009年8月。
- ・『アメリカン・ボード日本ミッション関連資料』（仮題）の概要について，『山形大学紀要（人文科学）』第17巻第1号，2010年2月。

(2) 教育，地域連携等の活動

- ・担当授業：例年と同じ。
- ・地域連携等：放送大学山形学習センターにて客員教員を務める。日常業務に加えて，面接授業などチマチマとこなす。

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

（° - ^*）d ないっ！

小熊 正久

(1) 研究成果

- ・「映画の知覚と映画の技術 現象学的観点から」（科学研究費補助金による研究成果報告書 pp.

30-40：研究課題「メディアの哲学の構築 画像の役割の検討を中心として」、2007-2009年度、代表者小熊)

(2) 教育活動

- ・担当授業科目と主題：哲学概論（前）[カント哲学を通しての哲学的問題の理解]，哲学講義（後）[コミュニケーションとメディアの諸問題]，哲学演習二（前）[出席者による読解と発表]，（後）[ハイデガー読解]，哲学原典講読（前），ギリシア語（前・後）[2年目の履修者と旧約聖書訳冒頭の読解を行った]，共生人間学（一）[小熊担当分：自然観と人間]，教養教育（前・後）[人間の哲学のために]，ヨーロッパ思想文化論特論。
- ・指導した修論，卒論の題目：「主体と環境 メルロ=ポンティを手掛かりとして」（修論），「デリダの思想」，「レヴィナスにおける倫理についての考察」。

(3) 平成21年度の研究・教育活動に関するコメント

- ・「哲学講義」（後期）において，清塚邦彦氏，松川俊夫氏にも講師をお願いして，メディアの諸問題について考察を行った。また，同授業の一環としてドイツの現象学者クラウス・ヘルト教授の講演会（演題「絵画芸術の革命としてのセザンヌの絵画」）も行うことができて，充実した内容となった。
- ・年度末に，研究成果欄に挙げた研究成果報告書冊子（共同研究者7人）をまとめることができた。今後の共同研究に活かしていきたい。

菊地 仁

(1) 研究成果

[論文]

- ・「山形における 花咲か爺 の話型 昔話「赤いこん箱（尻ひり爺）」が提起する問題」(『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』，第6号，pp. (27) 126- (44) 109, 2009年8月)
- ・「『浜松中納言物語』における対比的な表現」(『平安後期物語の新研究 - 寝覚と浜松を考える』，pp. 185-202, 2009年10月)

[書評]

- ・「恋田知子著『仏と女の室町 物語草子論』」(『伝承文学研究』，第58号，pp. 77-82, 2009年4月)
- ・「志立正知著『歴史を創った秋田藩 モノガタリが生まれるメカニズム』」(『文芸研究』，第168集，pp. 60-62, 2009年9月)

(2) 教育，地域連携等の活動

[平成21年度の担当授業]

- ・前期
教養セミナー（教養教育）
アジア文化基礎，日本文学概論，日本文学講読
日本古代中世文化特論，アジア文化特別研究（大学院）
- ・後期
文化論（教養教育）
日本古典文学講義，日本文化講読，国語の教材研究
日本古代中世文化特別演習，アジア文化特別研究（大学院）

[地域連携等]

- ・山形大学人文学部公開講座，2009年6月29日

「判じ絵のことは遊び～絵画の謎解きと謎々の絵解き～」

- ・横手城南高校高大連携授業，2009 年 7 月 22 日
 - 「災いの呼び起こす想像力 鬼 が襲ってくる（『今昔物語集』）」
 - 「災いの呼び起こす想像力 伝染病が目に見える（『春日権現験記絵』）」
- ・最上川俯瞰講義（大学コンソーシアムやまがた），2009 年 11 月 4 日
 - 「最上川の文学」
- ・最上川の重要文化的景観課題研究会（山形県教育委員会），2010 年 1 月 13 日
 - 「歌枕「最上川」の展開」

清塚 邦彦

(1) 研究成果

(a) 研究業績

著書

『フィクションの哲学』勁草書房，2010 年 12 月

論文

「絵を見る経験について：R・ウォルハイムとK・L・ウォルトンの論争を手がかりに」『メディアの哲学の構築：画像の役割の検討を中心として（平成 19 年度～21 年度科学研究費補助金基盤研究 C 研究成果報告書 研究代表者：小熊正久）』，（2010 年 03 月），12-21 頁

(b) その他の研究活動

日本科学哲学会 『科学哲学』編集委員

科学基礎論学会 『科学基礎論研究』査読委員

(2) 教育，地域連携等の活動

(a) 担当授業

（教養教育）「哲学ってどんなこと？（哲学）」（前・後期）

（専門教育）「哲学基礎」（後期），「人間情報科学基礎」（後期），「共生人間学（二）」（後期），「論理学概論」（前期），「情報記号論」（後期），「情報記号論演習」（前・後期）

（大学院）「論理学特論」（前期）

(b) 出張講義ほか

2009 年 8 月 3 日，オープンキャンパス模擬講義「コンピュータの心を哲学する」

2009 年 11 月 7 日，山形西高校「言葉と画像の意味論」

(c) 講演会ほか

2009 年 7 月 18 日，哲学若手研究者フォーラム 2009 年度テーマレクチャー「分析美学の現在」

2010 年 2 月 20 日，第 32 回現象学を語る会（『フィクションの哲学』合評会 於東北大学）

2010 年 3 月 27 日，GCOE ワークショップ フィクションの哲学（於慶應義塾大学）

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

著書の出版によってここ数年の研究に一区切りがついた。

齊藤 哲也

(1) 研究成果

[著書]

『ヴィクトル・ブローネル 燐光するイメージ』，水声社，2009 年

[研究論文]

「ブルトンとサド」，『層 映像と表現』第三号，ゆまに書房，2010 年，24-47 ページ。

[口頭発表]

「シュルレアリスムと戦争」, シンポジウム「民衆の政治と危機の速度」北海道大学, 2009年11月14日。

「声, テキスト, リズム」, 日本フランス語フランス文学会東北支部会, ワークショップ「声とテキスト」, 山形大学, 2009年11月28日。

(2) 教育, 地域連携等の活動

模擬講義 (山形県立山形北高等学校 10月21日)

坂井 正人

(1) 研究成果

[口頭発表]

1. 「ナスカの地上絵の分布と制作方法に関する予備的考察」可視化情報学会全国講演会/特別講演, 山形大学工学部, 2009年10月24日。

2. 「パコパンパ遺跡の景観構造: 2009年夏の調査より」(坂井正人, フアン・パブロ・ピジャヌエバ, 関雄二)『古代アメリカ学会研究大会』第14回, アメリカ学会, 南山大学名古屋キャンパス, 2009年12月5日。

[著書・論文・エッセイなど]

1. 『古代アンデス - 神殿から始まる文明』(大貫良夫・加藤泰建・関雄二・坂井正人・井口欣也)朝日選書。

2. 「古代アメリカの学術情報の普及 - 高等学校世界史教科書問題, マスコミ報道の改善, 研究成果の発信と還元 -」(青山和夫, 吉田栄人, 坂井正人, 井上幸孝, 多々良穰)『古代アメリカ』11: 95-103。

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

「文化人類学入門 (文化論)」, 「南米の考古学 (教養セミナー)」, 「比較地域研究概論」, 「文化人類学・宗教史講義 (二)」, 「文化人類学・宗教史講読 (二)」, 「文化人類学・宗教史演習 (二)」, 「文化人類学・宗教史演習 (三)」, 「文化人類学・宗教史実習 (二)」, 「文化人類学・宗教史基礎」, 「文化環境学 (一)」。

[卒業論文] 13名

[修士論文] 1名『中国内モンゴルにおける観光に関する人類学的研究』

[地域連携]

1. 「ナスカの地上絵: 山形大学の挑戦」『新入生保護者の皆様と山形大学の交流会』, パレス・グラウンデール, 2009年5月31日。

2. Las Lineas de Nasca: Vistas desde el Satelite. Centro Cultural Peruano Japonés, 2009年8月24日。

3. 特別展「世界遺産ナスカの地上絵謎」, 北九州市立いのちのたび博物館, 2009年9月19日~11月23日。

4. 「ナスカ地上絵はどこまで解明されたのか?」北九州市立自然史・歴史博物館, 2009年9月18日。

5. 地上絵の制作指導, 天童市立中部小学校, 2009年10月17日

6. 「ナスカの地上絵」山形市立図書館開館30周年事業・市民講座, 南部公民館, 2009年10月25日

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

「環太平洋の環境文明史」計画研究 A03「アンデス文明の盛衰と環境に関する学際的研究」(科学研究費補助金・新学術領域研究)および「山形大学人文学部プロジェクト研究支援」によって、ナスカの地上絵に関する現地調査を実施した。今年度は「ナスカ地上絵の制作技法」および「放射状直線の地上絵の中心点における活動」に注目して研究した。

さらに、ペルー北部高地のパコバンバ遺跡の考古学調査(科学研究費補助金・基盤研究(A)・研究代表者・国立民族学博物館教授・關雄二)に参加して、この遺跡の景観構造に関する調査を継続した。

なお、山形大学人文学部で行ってきた研究成果をもとにして、今年度は「北九州市立いのちのたび博物館」で特別展「世界遺産ナスカの地上絵謎」(2009年9月19日~11月23日)を開催した。

講義と演習では、世界の諸民族に関する事例を検討することで、文化人類学の基本的な考え方、民族誌の読み方と議論の仕方について扱った。また山形市山寺地区で、文化人類学調査(第12次)を実施した。

佐藤 清人

(2) 教育、地域連携等の活動

[主な授業科目]

英語(R), 英語(C), 英米文化論, 英米文学講読, 欧米文化基礎

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究では、日系アメリカ文学の研究を継続的に行った。

教養教育では、TOEIC 対策に対応する授業を試験的に行った。

専門教育では、学生の理解を重視し、パワーポイントによるプレゼンテーションや配付資料に工夫しながら授業を行った。

嶋田 珠巳

(1) 研究成果

[著書]

English in Ireland: Beyond Similarities, 溪水社, 2010年2月.

[項目執筆]

梶茂樹/中島由美/林徹編『世界のことば情報小事典』, 「アイルランド英語」の項目, 大修館書店, 392-395頁, 2009年4月.

[学会発表]

“Sociolinguistics of *be after* and other grammatical forms in Hiberno-English”, New Perspectives on Irish-English, ダブリン大学, 2010年3月.

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

平成 20 年度 10 月に本学に着任した。

当年度前期は、日本学術振興会特別研究員として、東京大学大学院人文社会系研究科にて「クレオールとしてのアイルランド英語の文法体系に関する動態的研究」を行った。青山学院大学国際政治経済学部にて、非常勤講師として英語の授業を担当した。

鈴木 亨

(1) 研究成果

論文: 「項の共有と非顕在項の認可 - 心理インパクト動詞を伴う非選択目的語結果構文」, 『山形大学人文学部研究年報』第 7 号 (2010 年 03 月)

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ・担当授業: 英語 C, 英語 R, 英語学概論 (一), 実践英語 (二), 英語学演習, 現代外国語 (英語), 英語語法論特論, 英語語法論特別演習
- ・「日本語でビートルズを歌えるか - 日英対照歌詞の言語学」, 山形大学人文学部公開講座『不埒なことばたち』(2009年6月)
- ・「ポップスで学ぶ英語の楽しみ」, 放送大学山形学習センター面接授業 (2009年7月)
- ・「ことばの窓から人間の頭の中をのぞく - 英語動詞の多義性について」, 山形大学人文学部オープンキャンパス模擬講義 (2009年8月)
- ・「文法はどこにある? - 言語という宇宙の科学」, 山形県立谷地高等学校一日総合模擬講義 (2010年1月)

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では, 非選択目的語の生起に関する事例研究として, 心理インパクト動詞 (frighten など) が関わる結果構文について, 語彙意味論の知見を反映させた統語論分析を試みた。教育面では, 1 年生の英語の授業において日常的な学習を動機づけるため, 毎回小テストを実施した。専門の授業では, 授業外にブックリポートを課すことにより, 英語の多読教育をすすめた。また, 公開講座や模擬講義では, 文法研究の知見を, 高校生や一般向けの題材で解説する講義を行った。

富澤 直人

(1) 研究成果

なし

(2) 教育, 地域連携等の活動

前期: 大学院 (英語学特論)

後期: 教養教育 (英語 R, 英語 R, 英語 CR), 学部 (英語学特殊講義, 共生人間学, 卒論 (2名)), 大学院 (英語学特演)

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

前期の大半の時期を病気により休みました。

富田 かおる

(1) 研究成果

“Variation of vowels in foreigner talk,” Bulletin of Yamagata University (humanities) 17:1, 79-92.

(2) 担当授業: 英語学概論, 英語学演習, 英語 (R), 英語 c

(3) 言語の生成を主なテーマとし, 特に発話の音響分析を基に, 米国人話者の母音フォルマントの測定と, 母音の特徴分析を行った。

中澤 信幸

(1) 研究成果

[論文]

- ・齊韻字に対する字音注の変遷について, 『国文学攷』202 (広島大学国語国文学会), pp. 1-14, 2009年6月

- ・山形大学学生の方言意識について、『山形方言』39 (山形県方言研究会), 左 pp. 16-26, 2009 年 9 月

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

- ・学部専門科目: 日本語 (二), 日本語学概論 (二), 日本語学特殊講義, 日本語学演習, 日本語学講読
- ・大学院科目: 日本語史特論, 日本語史特別演習
- ・教養教育科目: 日本語の歴史 (言語学), 日本語研究の歴史 (言語学)

[卒業論文]

「明治期の打消接続について」「戦後日本の新聞表記」(以上 2 本)

[地域連携]

- ・五十音図から見た日本語音韻の歴史, NHK 文化センター山形教室講座, 4 月 11 日・5 月 9 日・6 月 13 日
- ・『論語』を読もう ~ 普遍的な価値観を味わう~, NHK 文化センター山形教室講座, 2009 年 10 月 10 日・11 月 14 日・12 月 12 日
- ・『論語』を読もう 2 ~ 八佾・里仁~, NHK 文化センター山形教室講座, 2010 年 1 月 9 日・2 月 13 日・3 月 13 日
- ・日本語は変わっている?, 出張講義: 古川高等学校, 11 月 13 日

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

日本における「呉音」「漢音」といった漢字音の枠組みの変遷に関して論文を発表した。また山形大学学生の方言意識に関する研究にも着手した。この他日本漢字音と台湾語音とを対照させたデータベースも完成させた。

中村 篤志

(1) 研究成果

論文

- ・「書評: 岡洋樹著『清代モンゴル盟旗制度の研究』」『東洋史研究』第 68 巻第 3 号, 141-151 頁, 2009 年 12 月
- ・「北京值班モンゴル王公の日記について」(投稿, 印刷中)

学会発表

- ・「アイマクに関する覚書き ~ モンゴル遊牧社会の基層集団をめぐって」2009 年 6 月 20 日, 山形大学歴史地理人類学会第 11 回大会 (於: 山形大学人文学部)
- ・「清代北京のモンゴル王公」2009 年 6 月 27 日, 近世東アジア比較都城史研究会・第 1 回研究会 (於: 山形大学人文学部)
- ・「北京值班モンゴル王公の日記について」2009 年 9 月 20 日, 国際シンポジウム「モンゴル史研究と史料」(於: ウランバートル・モンゴル国立大学)
- ・「清代の巡幸をめぐって ~ 盛京・熱河の機能とその変遷」2010 年 1 月 10 日, 東アジア比較都城史研究会・第 7 回研究会「中近世中国の複都制」(於: 山口大学人文学部)

(2) 教育・地域貢献等の活動

[担当授業]

東洋史講義 (二), 東洋史概論 (二), 東洋史演習 (二), 東洋史講読 (二), 歴史学基礎, 文化人類学・宗教史講読 (二), 北アジア遊牧民の歴史 (教養・歴史学), モンゴル・遊牧を考える (教養・歴史学)

[教育活動]

- ・ 卒論指導：中国近世史を中心に6名の卒業論文を指導した。

[地域貢献活動]

- ・ 山形大学人文学部オープンキャンパス模擬講義：「アジアの歴史を考える～モンゴル遊牧社会の視点から」(2009年8月)
- ・ 出張講義：岩手県立盛岡北高等学校「モンゴル遊牧社会の過去と現在：養子の伝統をめぐって」(2009年10月17日)
- ・ 出張講義：宮城県立白石高等学校「モンゴル遊牧社会を考える：史料調査・現地調査を通じて」(2009年10月19日)

(3) 平成21年度の研究、教育活動に関するコメント

- ・ 新宮教授を代表とする科研費基盤研究(B)「近世東アジアの都城および都城制についての比較史的総合研究」のメンバーとして、清代北京におけるモンゴル王公の活動について研究報告し、夏に中国開封などでの都城調査に参加した。
- ・ 夏にウランバートルでの史料調査、国際シンポジウムでの報告をおこない、国内ではモンゴルの遊牧社会に関するフィールド調査をふまえた研究発表などをおこなった。
- ・ 新宮教授とともに2010年2月15日に学術講演会「遼代の祖陵(耶律阿保機陵)および上京城址の発見と研究」(中国社会科学院考古研究所・董新林先生)を開催した。

中村 隆

(1) 研究成果

研究論文：

「クルックシャンクのたくらみ 『オリヴァー・トゥイスト』におけるホガス模倣」(『山形大学人文学部研究年報』第7号, pp. 61-83)

(2) 教育、地域連携等の活動

担当授業：

英語(C)および(R)、英作文中級、欧米文化概論、英米文学概論、英文学演習

地域連携：

秋田大学において集中講義を担当した。担当科目名：言語思想論 (2009年8月)

山形県庄内地区2校への高校訪問 (2009年10月)

(3) 平成21年度の研究・教育活動に関するコメント

研究：『オリヴァー・トゥイスト』に付された挿絵の中に意図的に仕掛けられたホガス模倣を検証することにより、本文をなぞる挿絵ではなく、本文から独立する志向性を持つ挿絵(エンブレム)を絵師クルックシャンクが目論んでいたことを明らかにした。

教育：教養英語では、速読・聴解・発話の基礎練習に取り組んだ。専門教育では、講義でディケンズとホガスを取り上げた。演習ではコナン・ドイルの「まだらの紐」と「白銀号殺人事件」を原文で読み、難易度の比較的高い英文読解に取り組むとともに、物語の中からトピックを見つけ、口頭発表することでプレゼンの基礎訓練をした。

中村 唯史

(1) 研究成果

[論文]

1. 19世紀末 20世紀初のロシア神秘主義と「東洋」の表象、新学術領域研究「ユーラシア地域大

国の比較研究」HP, 第 6 班文化研究成果・活動報告, 2010 年 1 月, http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/group_06/achievements/files/20091220_nakamura.pdf

2. ソ連における翻訳の問題に寄せて: ガムザトフの詩『鶴』再考まで, 『辺境と異境: 非中心におけるロシア文化の比較研究』1号, 2010年3月, 18-35頁

[項目執筆・エッセイ等]

1. パーベリ『騎兵隊』, 『ロシア文学: 名作と主人公』(自由国民社), 2009年12月, 186-189頁
2. 山形新聞コラム「<ことばの杜>へ」担当。2009年5月2日(小熊秀雄「流民詩集」序), 同6月27日(ボリス・エイヘンバウム「批評家メレジコフスキー」), 同8月22日(ピクトル・シクロフスキー「手法としての芸術」), 同10月17日(イージー・パイル「星のある生活」), 同12月12日(聖書「雅歌」), 2010年2月13日(富沢赤黄男「黙示」)

[口頭発表等]

1. パフチンの<対話>をめぐって, 日本ロシア文学会東北支部会 2009年度研究発表会, 2009年6月28日, 於東北大学東北アジア研究センター
2. パフチン『可能性をより大胆に活用せよ』に見る「多文化主義」, 科研費基盤 B「辺境と異境: おけるロシア文化の比較研究」2009年度第1回研究会, 2009年8月26日, 於北海道大学大学院文学研究科
3. 2009年度ロシア・東欧学会, JSSEES 合同大会, 自由論題報告論評者, 2009年10月18日, 於秋田大学教育文化学部
4. エイヘンバウム『私の年代記』考, 日本ロシア文学会第59回研究発表会, 2009年10月25日, 於筑波大学大学院人文社会科学研究科
5. 1910 - 20年代のソ連批評理論における声とテキスト, 日本フランス語フランス文学会東北支部会ワークショップ「声とテキスト」, 2009年11月28日, 於山形大学人文学部
6. 19世紀末 - 20世紀初頭のロシア神秘主義と「東洋」の表象, 新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」第6班「文化」2009年度第2回研究会「ユーラシア地域大国の神秘主義をめぐって」, 2009年12月20日, 於北海道大学スラブ研究センター
7. 国際ワークショップ「ポストスターリン時代の文化的想像力」コメンテーター, 2010年2月22日, 於東京外国語大学
8. ゴーリキーの作品におけるロシアノルーシの軸としてのヴォルガの表象(ロシア語報告), 東アジア・スラヴ学会国際会議「変容する世界秩序におけるロシアとユーラシア」, 2010年3月3 - 7日, 於大韓民国ソウル市教育文化会館

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

教養教育: ロシア語, ロシア語

専門教育: ロシア文化論, ロシア文化講読, 比較文化・表象文化基礎, 表象文化演習

[指導卒業論文テーマ]

「現在の歴史・歴史人物像について」, [マリリン・マンソンをめぐって], 「世代と文化」, 「時間の相互性: 作者・物語・受容者」, 「童謡考」, 「メタフィクションの侵食」, 「映画におけるアドルフ・ヒトラー像の変遷」, 「ロシアンロック研究」

[指導修士論文テーマ]

「日本の商標の言語学的・社会的・文化的特性に関する研究」

[地域連携等]

- ・非常勤講師：宮城学院女子大学 (表象文化論)、筑波大学 (ロシアの言語と文化)
- ・北海道大学スラブ研究センター共同研究員
- ・日本ロシア文学会国際交流委員、学会賞選考委員、大会実行委員
- ・ロシア東欧学会編集委員
- ・「ロシア語ロシア文学」、「Japanese Slavic and East European Studies」誌査読担当
- ・出張講義：上山明新館高 (2009年6月4日)、旭川北高 (同8月25日)、山形東高 (同10月6日)、札幌新川高 (同11月11日)
- ・講演：「詩的言語を求めて：文学研究者の立場から」(山形詩人会定例総会、2009年4月25日)、「誰のものでもないことば：日本マンガのことばの位相」(山形大学人文学部公開講座「不埒なことばたち：教科書には載らない言語の生態学」同6月22日)、「宮崎駿はエコな作家か？：その自然観の移り変わり」(山形市立図書館、2010年2月7日)
- ・山形新聞「山新文学賞」選評担当 (毎月1回)
- ・山形フォーラム「ロシア文学映画館シリーズ」解説：カネフスキー特集 (同4月23日)、番外編 (『懺悔』同4月28日)、6回 (『狩場の悲劇』同5月22日)、7回 (『持参金のない娘』同6月19日)、8回 (『ジブシーは空にさえる』同7月28日)、9回 (『小犬を連れた貴婦人』同8月28日)、10回 (『かもめ』同9月25日)、11回 (『ドストエフスキーの生涯の26日』同10月30日)、12回 (『母』同11月27日)、番外編 (『ピロスマニ』同12月11日)、13回 (『石の花』2010年1月29日)、14回 (『外套』同2月26日)、15回 (『機械じかけのピアノのための未完成の戯曲』同3月26日)

(3) 平成 21 年度の研究、教育活動に関するコメント

その他、2009年9月10 - 20日、科研費基盤研究 A「ヴォルガ文化圏とその表象をめぐる総合的研究」によるヴォルガ河中流域調査旅行に参加した。

西上 勝

(1) 研究成果

[論文]

「墨竹と文学」、東北大学中国語学文学論集、第 14 号、pp43-56

「『宣和画譜』小考」、山形大学紀要 (人文科学)、第 17 巻第 1 号、Pp1-19

(2) 教育、地域連携等の活動

専門教育：中国文学概論、日中文化交流史演習など

教養教育：外国語科目中国語 及び

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

特になし。

福野 光輝

(1) 研究成果

[論文]

Ohtsubo, Y., Takezawa, M. & Fukuno, M. (2009). Mutual liking and meta-perception accuracy. *European Journal of Social Psychology*, 39 (5), 710-718.

[分担執筆]

福野光輝 (2009). 交渉・取引 日本社会心理学会 (編) 社会心理学事典、丸善、314-315.

福野光輝 (2009). 葛藤解決と文化 日本社会心理学会 (編) 社会心理学事典, 丸善, 480-481.

福野光輝 (2009). 交渉と葛藤解決 産業・組織心理学ハンドブック, 丸善, 216-219.

[学会発表]

福野光輝 (2009). 公共事業における対立構造の認知：利害関心の認知との関連. 東北心理学研究, 59, 66.

福野光輝 (2009). 葛藤解決における第三者の意思決定：作業時間と作業時間を貢献度とした検討. 北海道心理学研究, 32, 31.

(2) 教育, 地域貢献等の活動

[担当授業]

「人間行動の科学 (心理学)」(前期・後期), 「共生人間学 (一)」(前期), 「情報行動論」(前期), 「心理学研究法演習」(前期・後期), 「心理学実験」(前期), 「心理学特殊実験」(前期・後期), 「人間文化入門総合講義」(前期, 第 4 回担当), 「行動科学情報処理実習」(前期), 「心理学基礎」(後期)

[卒業論文指導]

「課題遂行における他者存在の影響：社会的促進における評価懸念説の検討」

「『道具的甘え』と『情緒的甘え』の性差について」

「携帯電話を使用した友人関係が規範意識に及ぼす影響」

「顕在的動機と潜在的動機が健康におよぼす影響：動機の自己評価と他者評価による検討」

「フォロワーの影響戦略がリーダーの印象評価に及ぼす影響」

「プライミングによるステレオタイプの特性の活性が行動に与える効果」

「暴力映像が攻撃行動に及ぼす効果：お笑いバラエティー番組による検討」

「顔文字が説得的コミュニケーションに与える影響について」

[出張講義]

福野光輝 (2009). 文化差はどこから生まれるか? (酒田西高等学校, 山形県酒田市, 2009 年 10 月 14 日)

福野光輝 (2009). はじめての心理学. (多賀城高等学校, 宮城県多賀城市, 2009 年 11 月 5 日)

福山 泰男

(1) 研究成果

平成 22 年 3 月, 中国・華中師範大学において, 「中国古代文学中的女性書写」と題し講演。原稿は中国語で, 『世界文学評論』(2010, 第 2 期) に掲載。

(2) 教育, 地域連携等の活動

平成 21 年 4 月, ハルビン工業大学を訪問, 渡日前入試の調査を行う。

7 月, 学生を引率し, ハルビン工業大学主催の国際学生交流プログラムに参加。

8 月, 韓国・全南大学主催の学生夏期研修に参加, 今後の交流について人文大学校長, 国際センター長等と協議。

12 月, 台湾・銘傳大学・中山大学を訪問, 今後の学術・教育交流について協議。

平成 22 年 2 月, 人文学部主催の国際学術講演会をプロデュースした。

3 月, 大学院渡日前入試調査等で中国・華中師範大学・河南師範大学・北京師範大学・大連理工大学を訪問。あわせて今後の交流方向について協議。

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

人文学部の国際交流に関し新たな段階, 可能性を模索する一方, 具体的な交流活動を実施。より継続的な学術・教育交流の体勢作りと, 学生の積極参加をどう働きかけるかが, 今後の課題である。

藤澤 秀光

(2) 教育・地域連携等の活動

・担当授業名

(学部) アメリカ研究演習, アメリカ研究特殊講義, 英語 R , 英語 R ,
欧米文化概論, 人間文化基礎演習

(大学院) 英米現代文化論特論, 英米現代文化特別演習

・地域連携活動 (ボランティア)

国際ロータリー第 2800 地区財団奨学生選考委員

国際ロータリー第 2800 地区財団ロータリー学友会代表幹事

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

・ユダヤ系, 日系といったアメリカの少数民族に関する小説, 演劇, 雑誌, 新聞, 広告, CM, 映画, TV 番組, 音楽, スポーツといった, 文字化, 音声化, 映像化された文化的生成物を対象にした研究を行っています。

・教育活動としては, 山形県のロータリークラブの財団奨学生のアドバイザーとして奨学金申請から海外の留学先の大学, 大学院決定までの指導を行っています。ちなみに本年度は院生 1 名をフランスのマルセイユ大学の大学院に, また, もう 1 名の学生をポルトガルに留学できるよう指導しました。

古川 英明

(1) 研究成果

成果をまとめるに至りませんでした。

(2) 教育

専門教育

前期 哲学演習 (一) (「プラトーン『ソクラテースの弁明』を読む」)

後期 哲学講読 (Whitehead: Science and the Modern World, ch. 1)

後期 哲学演習 (一) (「イロニーの人, ソクラテース——キルケゴールの『弁明』解釈」)

哲学基礎 [3 回担当] (「声とアイデア説」)

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

一年の病気休職を経て職場に復帰しました。人間文化学科と哲学専修の同僚の先生方のご配慮を賜り, 教養教育と専門教育の講義 (「哲学基礎」を除く) を, 加えて各種委員の校務を免除していただきました。おかげさまで順調に過ごすことができました。なお, 専門教育「ラテン語上級」と大学院授業科目は参加者が無く開講しませんでした。

本多 薫

(1) 研究成果

著書

1) 市川博, 本多薫, 本間学: データ処理入門「Excel による統計解析」, 日本教育訓練センター, 2009 年 9 月 25 日発行。(ISBN978-4-931575-94-3)

論文

1) 本多薫: 静的負荷時の筋電図解析に関する基礎的検討, 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要, 第 6 号, p. 13-26, 2009 年 08 月

2) 門間政亮, 本多薫: 音楽に含まれる言語情報が文章課題に与える影響に関する検討, 人間工学,

第 45 巻 3 号, p. 170-172, 2009 年 06 月

- 3) 伊藤理絵, 内藤俊史, 本多薫: 幼児に見られる攻撃の笑いについて - 観察記録からの検討 -, 笑い学研究, 第 16 号, p. 114-118, 2009 年 07 月

国際会議

- 1) Kaoru Honda: Measurement of Workload During Exit-Seeking Behavior in an Underground Space using Heart Rate Variability, IEA2009, p. 2BU0006_1-6, 2009 年 08 月
2) Hiroshi Ichikawa, Kaoru Honda, Hiroo Hirose, Yoshito Yamamoto, Manabu: The Actual Conditions of VDT Operation and Fatigue by Progress of ICT, IEA2009, p. 2HE0025_1-6, 2009 年 08 月

学会発表

- 1) 本多薫: 探索歩行行動と心拍変動との関係に関する検討, 情報処理学会第 72 回全国大会講演論文集 (4), p. 1-2, 2010 年 03 月
2) 本多薫: 連続負荷時における筋電図の変化に関する検討, 日本経営工学平成 21 年度春季大会予稿集, p. 110-111, 2009 年 05 月
3) 佐藤矢, 本多薫, 渡邊洋一: 自動車運転中の携帯電話使用による負担に関する検討, 日本人間工学第 50 回記念大会講演集, p. 370-371, 2009 年 06 月
4) 門間政亮, 本多薫: ディスプレイの情報提示に関する基礎的検討, 日本人間工学会関東支部第 39 回大会講演集, p. 100-101, 2009 年 12 月

(2) 教育, 地域連携等の活動

授業: (教養) 情報処理; (学部) 公務員対策セミナー, 人間情報科学概論, 人間情報科学基礎, 人間情報科学演習, 人間情報科学実習, プログラミング演習; (大学院) 人間情報科学特論, 人間情報科学特別演習, 心理・情報特別研究

卒業研究の指導 (人間情報科学専修担当として指導):

- (a) Web 上での購買行動における嗜好情報について
(b) デジタル・ディバイトに関する研究
(c) 動画投稿サイトの利用実態に関する研究
(d) 文字表示媒体の違いによる情報取得効率の変化について
(e) 未成年者における電子メディア利用の現状と課題

地域貢献活動等:

- (a) 出張講義: 山形県立山形西高等学校 (「人間工学とコミュニケーション」を講義した)
(b) 放送大学山形学習センター客員准教授 (学習相談等を担当した)
(c) 放送大学非常勤講師 (「パソコンによるデータ処理入門 09」を講義した)
(d) 日本経営工学会東北支部 運営委員
(e) 日本人間工学会 評議員 (代議員)
(f) 日本建築学会 倫理委員会 教育・研究プログラム小委員会 委員
(g) 土木学会 地下空間研究委員会 心理小委員会 委員

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

平成 21 年度は, 筋電, 心拍の生体情報処理, 言語情報の処理などの研究を進めた。また, 教育としては, 情報科学関連の講義を担当するとともに, 清塚邦彦教授との共同で卒業研究の指導を行った。

松尾 剛次

(1) 研究成果

著書

遊学館ブックス『もがみ川～記憶と再発見～』(財)山形県生涯学習文化財団(共著), 2009
親鸞再考 僧にあらず, 俗にあらず』日本放送出版協会, 2010年2月, p1 - 189

論文

「現代における仏教の役割 - 葬式仏教再考 -」『現代と親鸞』第18号, 2009年6月1日 (p55 - 94)
「八幡宮について - 置賜地方の八幡宮についても触れつつ」『歴史と考古』第6号, 2009年7月 (p14 - 22)
「山形市宝光院と文殊菩薩騎獅像」『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要 第6号』, 2009年8月 (p127 - 134)
「日本民衆の生と浄土信仰 兜率天浄土と五輪塔」『東亜細亜文化と浄土信仰』東亜細亜仏教文化学会編, 2009年12月 (p53 - 67)
「中世律宗と石造五輪塔 - 石塔の宗教思想史再考 -」『第39回 三菱財団事業報告書 平成20年度』財団法人三菱財団, 2009年12月 (p463 - 464)
「石塔の思想史 - 五輪塔を中心に -」『宗教研究』第83巻 363, 2010年3月 (p1262-1263)
「真田玉蔵坊文書と同文書目録」『山形大学人文学部 研究年報 第7号』, 2010年3月 (p121-170) その他
(その他)

書評「兵藤裕己著『琵琶法師 - 異界を語る人びと』」『山形新聞』2009年5月31日
書評「高橋慎一郎/千葉敏之著『中世の都市』」『山形新聞』2009年6月28日
記事「直江兼続 素顔に迫る 兜の「愛」の意味」『山形新聞』2009年7月15日
書評「峰岸純夫著『足利尊氏と直義 京の夢, 鎌倉の夢』」『山形新聞』2009年7月26日
書評「森正蔵著『解禁 昭和裏面史』」『山形新聞』2009年8月23日
研究発表「石塔の宗教思想史 五輪塔を中心に」(京都大学 日本宗教学会), 2009年9月11日 - 13日
書評「光成準治著『関ヶ原前夜』」『山形新聞』2009年9月13日
解説「破戒の日本仏教史」石田瑞磨著『女犯』筑摩書房, 2009年9月
記事「著者に会いたい 松尾剛次」『ひとりふたり』第112号, 法蔵館, 2009年9月 (p18 - 19)
講演「唐招提寺證玄五輪塔と西琳寺惣持五輪塔をめぐって」(奈良 唐招提寺), 2009年11月8日
書評「小島 道裕著『描かれた戦国の京都 洛中洛外図屏風を読む』」『山形新聞』2009年10月11日
書評「安田次郎著『寺社と芸能の中世』」『山形新聞』2009年11月1日
講演「日本民衆の生と浄土信仰」(釜山 東亜大 東アジア学会学術大会), 2009年11月28日
書評「水藤真著『中世の葬送・墓制』」『山形新聞』2009年12月6日
記事「仏教・宗教関係書 今年の3冊(2009)」『週刊仏教タイムス』2009年12月10日
講演「中世都市奈良と律寺 - 平安京・鎌倉と比較しつつ -」(キャンパスプラザ京都 日本史研究会), 2009年12月26日
「戒の力で末世に挑んだ遁世僧 叡尊」『歴史読本 新春特別号』 新人物往来社, 2010年2月, p76 - 81,
「分野多彩に力作そろそろ - 本県関係ことしの出版物 宗教部門」に掲載 『山形新聞』2009年12月27日
書評「山本博文著『江戸に学ぶ日本のかたち』」『山形新聞』2010年1月10日
対談録「墓石とは死の文化」『月刊 石材 Vol. 352』2010年1月15日
書評「堀新著『日本中世の歴史7 天下統一から鎖国へ』」『山形新聞』2010年2月7日

(2) 教育，地域連携等の活動

- ・山形学企画委員を務める（2009，4 - 現在に至る）
- ・地域連携活動として，以下の講演などを行う。

講演「観る光らず山形～過去から未来へ～」(山形県生涯学習センター 平成 21 年度「山形学」フォーラム)，2009 年 6 月 6 日

講演「日本仏教と文化 - 葬式仏教の誕生 - 」(山寺芭蕉記念館)，2009 年 8 月 1 日

講演「山をおりた親鸞」(響学舎 山形教務所)，2009 年 9 月 10 日

中国 武漢大学にて集中講義「日本仏教の特徴」2009 年 10 月 13 日～15 日

福島県立喜多方高等学校にて出張講義「知的向上心のための講義 (史学分野)」2009 年 10 月 23 日

講演“Death and Buddhism in the Middle Ages From the Standpoint of the System Model of Official Monks and Reclusive Monks” (ミシガン大学 Center for Japanese Studies)，2009 年 11 月 12 日

秋田県立秋田中央高等学校にて出張講義「歴史学への誘い」2009 年 11 月 26 日

山形県立新庄北高等学校 3 年生 2 名の研究指導を実施 2010 年 3 月・卒論修論指導

人文学部 4 年生 10 人，修士 2 人の卒論・修論の指導を行う 2010 年 3 月 論文題名は以下

院生

「『正法眼蔵』の世界観について - 十二巻本に注目して - 」

「近世後期における徳川家康年忌法会と地方天台寺院 出羽国村山郡の天台寺院を素材として 」

4 年生

「猫の怪考」

「道の形成と宗教 奥大道を中心に 」

「室町時代における公武関係の一考察」

「後宮十二司 内侍を中心に 」

「浅井氏における戦国大名化の定義」

「絵巻物に見る動物の象徴性について」

「織田信長の民生安定政策 天正十年信濃・甲斐における禁制を中心に 」

「近世における農民の土地所有について 長瀬質地騒動を中心に 」

「中世日本における穢れの問題について」

「支倉常長の墓についての考察」

「居合いについての一考察」

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では，著書 2，論文 7 で，大いに生産的な年であった。教育面も 12 人の卒論・修論指導を行うなど，大変であったが，充実していた。

三上 喜孝

(1) 研究成果

(論文)

三上喜孝「形態と記載様式からみた日本古代木簡の特質」『木簡と文字』第 3 号，2009 年 6 月，韓国木簡学会，93～114 頁。

三上喜孝「中近世の仏堂墨書と地域社会 - 天童市若松寺観音堂墨書の調査をふまえて - 」『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』6，2009 年 8 月，136～148 頁。

三上喜孝「考古資料としての木簡」『韓国古代史研究』2010 年 3 月，韓国古代史学会，215～242 頁。

(調査報告)

フォーラムの始まり

三上喜孝「百刈田遺跡出土の墨書土器について」『山形県埋蔵文化財センター調査報告書 184 集 百刈田遺跡第1～4次発掘調査報告書 本文編』(財)山形県埋蔵文化財センター, 2010年3月。

(学会発表)

三上喜孝「百濟『佐官貸食記』木簡と日本古代の出挙制」記念セミナー「百濟“佐官貸食記”の世界」国立扶余博物館, 2009年5月21日。

三上喜孝「日本古代の文字と言語」成均館大学東アジア学院東アジアフォーラム「東アジアの文字と言語」2009年6月12日。

三上喜孝「考古資料としての木簡」第11回韓国古代史学会夏季セミナー「新発見文字資料と韓国古代史研究」2009年7月23日。

三上喜孝「東アジア律令制研究の新視点」第16回東アジア資料学研究会定期発表会, 成均館大学, 2009年10月24日。

三上喜孝「日本における漆紙文書研究の現況とその意義」第7回湖南考古学会遺跡発表会「08・09 湖南地域文化遺跡発掘成果」, 2009年12月11日。

(2) 教育, 地域連携等の活動

1年間, 韓国・国立慶北大学校で研修を行っていたため, 日本での教育, 地域連携活動は行っていません。

(3) 2009年度の研究・教育活動についてのコメント

韓国・慶北大学校における研修中は, 韓国内の歴史学や考古学関係の学会ならびに研究機関で, 計5回の研究発表を行った。また, 韓国の学会誌に論文を2編掲載することができた。これらを通じて, 数多くの韓国の研究者たちと学術交流をはかることができた。

元木 幸一

(1) 研究成果

[招待講演]「剥きかけのレモンと倒れたグラス - 静物画を読み解く -」青森県立美術館, 2009年4月

(2) 教育, 地域連携等の活動

[授業]

聖母・魔女・お姫様 (芸術), 西洋美術への招待 (芸術), 芸術文化基礎, 芸術文化特殊講義, 美学・芸術学演習, 美術史演習, 芸術文化実習, 表象文化 (美学・芸術学) 特論, 美学・芸術学演習, 欧米文化特別研究

[卒論指導]

「パラッツォ・ヴェッキオ 四大元素の間の絵画に込められた意味についての考察 - 《ウラノスの去勢》と画家, パトロン, 構図助言者 -」 「シモーネ・マルティーニ二作《受胎告知》図像の研究」

「ハンス・ホルバイン (父) 《生命の泉》研究」

[修士論文指導]

「ルーベンスとレンブラント - コレクションからみる比較 -」

[地域連携] 放送大学客員教員

[講演会等]

「お笑い美術館」ロータリークラブ山形, 2009年4月

「西洋美術への招待～聖人と聖女のイメージ～」NHK 文化センター山形教室，2009 年 4～6 月
「お笑い美術館」ロータリークラブ山形中央，2009 年 6 月
「学生の意欲と FD」八戸大学 FD 研究会講演，2009 年 6 月
「笑いの美術史」宮城県多賀城高等学校模擬授業，2009 年 8 月
「本を読む女：ルノワール《庭で犬を膝に抱いて読書する少女》」山形大学公開講座・附属博物館
主催，山形美術館，2009 年，12 月

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では，中世ユーモア表現の研究を推進したが，発表は翌年度になった。またニュルンベルク農民祝祭版画の個別研究を少しずつ進めている。これも成果は翌年度以降となる。また科学研究費の共同研究者としてドイツのヴェルツブルク，ヴィッテンベルクなど数都市を教会美術を中心に調査した。

教育面では，卒論の出来は昨年度ほどではなかったので，どこが悪かったのか反省する必要がある。定期的に卒論指導日をもうけており，オフィスアワーもあるわけだが，そのように日時を設定することでかえって日常的に来にくくなっている側面もあるのかもしれない。卒論の勉強をしていて，悩みに突き当たった時，あるいは良いアイデアを思いついた時にすぐ訪ねて来れるように促す必要があるかもしれない。

大学院生は指導している 1 名がロータリーの奨学生としてフランスに語学研修に行った。修士論文指導では，もう一つテーマを詰め切れないままに執筆に至ったことが残念であった。

授業は，受講生数も教養では 2 授業でトータル 400 名を超えていた。ややマンネリ化している側面があるので，工夫する必要があるかもしれない。

森岡 卓司

(1) 研究成果

[共著]

中村三春編『ひつじアンソロジー小説編 子ども・少年・少女』（ひつじ書房，平成 21 年 4 月 1 日）に収録論文（単著）「北川千代解説 感傷でもなく教訓でもなく」（p222?228p）を執筆。

[シンポジウムディスカッサント]

シンポジウム「日本近代文学とサブカルチャーの境界」（主催：日本「60 年代文学研究会」（平成 20・21・22 年度科学研究費補助金 基盤研究（C）「1960 年代日本における文学概念の変容についての総合的研究」（課題番号 20520152）に同じ），共催：輔仁大学日本語文学科，平成 21 年 8 月 19，20 日，台湾輔仁大学野声楼）にてシンポジウムディスカッサントをつとめる。

[講演・シンポジウム]

山形大学人文学部国際学術講演会「共振する東アジア 現代東アジアの文学交流」（平成 22 年 2 月 20 日，山形大学人文学部）にて「日本を語る日本語の地政学 東アジア・日本・アメリカ」と題した講演を行い，シンポジウムパネラーをつとめる。

(2) 教育，地域連携等の活動

[出張講義]

宮城県石巻高等学校（平成 21 年 10 月 22 日）

[論文指導]

卒業論文 3 名，修士論文 2 名

[授業担当]

「村上春樹の世界（文学）」ほか教養教育科目 2，「日本文化概論」ほか専門教育科目 4，「日本近現代文化論特別演習」ほか大学院担当科目 2（特別研究除く），非常勤担当科目 4（山形短期大学）。

ほかに、進路指導委員会担当授業「キャリア・ガイダンス」担当。

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

平成 20 年度科学研究費補助金基盤研究 (C), 「1960 年代日本における文学概念の変容についての総合的研究」(課題番号 20520152, 研究代表者北海道大学大学院准教授押野武志), および「脱ジャンル領域としての「小品」に関する動態的・文化史的総合研究」(課題番号 20520153, 研究代表者東北大学大学院教授佐藤伸宏) の両共同研究の研究分担者として研究を進めている。
着任初年度, 様々のご配慮を賜った各位に感謝します。

森田 光宏

(1) 研究成果

[研究論文]

1. Morita, M. (2010). Recognition of English derived words by Japanese learners of English. 全国英語教育学会紀要 (ARELE), 21, 1-10
2. Morita, M. (2010). How does a short term study abroad influence language learning strategies?:The case of the Intercultural Communication Program at Yamagata University. 『研究年報』, 第 7 号, 23-36. 山形大学

[学位論文]

森田光宏 (2010). 『日本人英語学習者はどのように心的に語彙を貯蔵しているのか 英語派生接尾辞付き語の表示を中心に』名古屋大学 大学院 国際開発研究科 博士学位論文

[口頭発表]

1. 阪上辰也・森田光宏・村尾玲美・松野和子 (2009). 「日本人英語学習者『動的』コーパスの構築」NLP 若手の会第 4 回シンポジウム (京都大学) (2009 年 9 月 30 日): ポスター発表
2. 森田光宏 「日本人英語学習者による英語派生語の認識処理」 第 35 回全国英語教育学会鳥取研究大会 (鳥取大学) (2009 年 8 月 8 日)

[講演]

特別講演「スピーチの向こう側」 第 57 回東北六県中学校英語暗唱・高校英語弁論大会 (2009 年 11 月 7 日) いわて県民情報交流センター (アイーナ)

(2) 教育, 地域連携等の活動

教養教育担当授業: 英語 (C), 英語 (R),
専門教育担当授業: 実践英語 (一), 英語学特殊講義

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

[研究]

- ・平成 19 年度より科学研究補助金 (日本学術振興会 平成 19, 20, 21 年度 若手研究 (B) 課題番号: 19720131) の交付を受け, 「日本人英語学習者の派生接尾辞英単語の認知に関する研究」を行っている。
- ・文章産出過程を情報として含む新しい形式の日本人学習者コーパス「動的コーパス」を構築し, 日本人英語学習者の英語産出過程を明らかにすること試みた。

[教育]

- ・受講生らが互いに知識を確かめ合い、高め合うように授業内容を工夫した。

山崎 彰

(1) 研究成果

- ・共著
『比較連邦制史研究』多賀出版（2010年3月）（第3章「ハルデンベルク改革政治とマルヴィッツ」を執筆）
- ・論文
Japanische Forschungen zu den Preussischen Reformen in Vergangenheit und Gegenwart, in: European Studies, Vol. 9 (2010)

(2) 教育、地域連携等の活動

- ・教養教育
「近代ヨーロッパ国家の多様なかたち」「ヨーロッパ史の中のドイツ」。他に「自分の未来を描いてみる - キャリア形成論」を企画し、実施した。
- ・専門教育
「歴史学基礎」「西洋史概論(二)」「西洋史講義(二)」「西洋史演習(二)」「西洋史講読(二)」「卒業論文」。以上の他に松本邦彦准教授とともに「地域づくり特別演習(二)」を企画、実施した。
- ・大学院教育
「ドイツ史特論」「ドイツ史特別演習」を用意したが、今年度は受講者はなし。
- ・社会連携の分野では、本学と山形交響楽団ならびに山形国際ドキュメンタリー映画祭との連携事業を推進した。その中で2010年8月開催の「アフィニス夏の音楽祭2010山形」には運営委員として参加した。また「山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー」を学会、研究機関に紹介する事業を映画祭事務局と準備している。
- ・赤湯高等学校、湯沢高等学校で出張講義を行った。

(3) 平成 21 度の研究・教育活動に関するコメント

- ・科研費（基盤研究C）「19世紀前半ブランデンブルク農村社会の紛争と社会的調整に関する実証的研究」（代表・山崎彰）が3年目（最終年）であるので、成果報告書にまとめた。
- ・「地域づくり特別演習(三)」では新たな受入団体（市民団体、NPO）をさらに増やし、学生の期待に応えたい。

山田 圭一

(1) 研究成果

[著書]

山田圭一、『ウィトゲンシュタイン最後の思考 確実性と偶然性の邂逅』、勁草書房、2009年9月。

[論文]

- 1) 山田圭一、「ウィトゲンシュタインの文脈主義 壊れにくい知識モデルの構築を目指して」『科学哲学』（日本科学哲学会編）42巻1号、2009年7月、51-63頁。
- 2) 村瀬智之・土屋陽介・山田圭一、「深く考え、伝えあう場をつくるために～哲学的議論を通じたコミュニケーションの試み～」、『第二十五回暁烏敏賞入選論文』（白山市教育委員会編）、2009年10月、23-36頁。

[学会発表]

- 1) 土屋陽介・村瀬智之・山田圭一, 「初中教育における哲学教育の可能性 世田谷区の教科「哲学」の取り組みを手がかりに」, 日本哲学会 (於慶応大学), 2009年5月。
- 2) 山田圭一, 「受肉する『私』 ウィトゲンシュタインが最後に考えた確実性の問題」, 日本哲学会 (於慶応大学), 2009年5月。
- 3) 山田圭一・土屋陽介・村瀬智之, 「初中教育における倫理学の貢献可能性」, 日本倫理学会ワークショップ (於南山大学), 2009年10月。

(2) 教育, 地域連携等の活動

担当授業名:

「論理学」, 「哲学講義」, 「哲学演習」, 「生命環境思想演習」(すべて非常勤講師として)

(3) 平成21年度の研究・教育活動に関するコメント

- ・2009年4月より, 「初中教育における哲学教育研究」(挑戦的萌芽研究, 課題番号: 21652002)の研究代表者として初等中等教育段階での哲学教育の意義と可能性についての研究に着手した。
- ・同じく2009年4月より, 日本科学哲学会の石本基金若手研究助成(課題名「帰属者の文脈主義モデルを用いた認識の多元性の解明」)を受けて, 現代認識論の諸問題を解決できる新しい知識モデルの構築についての研究を進めているところである。

山田 浩久

(1) 研究成果

著作

- ・『離島に吹くあたらしい風』, 海青社, 2009年9月

論文

- ・「新潟県粟島における観光業の実態と今後の展開」, 2009年2月, 山形大学紀要(社会科学編), 39-2.
- ・「地価を用いた都市集約化の計量的把握 - 関東地方を事例にして -」, 2010年2月, 山形大学紀要(人文科学編), 17-1.
- ・「山形市の構造的再編に関わる問題点と今後の方向性」, 2010年2月, 山形大学人文学部研究年報, 7.
- ・「地方における市町村合併の将来性」, 2010年3月, 山形大学歴史・地理・人類学論集, 11.

口頭発表

- ・「地価の相対値を用いた都市集約化の計量的把握 - 東京大都市圏を事例にして -」, 2009年5月, 東北地理学会.
- ・「東京大都市圏における土地利用の平準化」, 2009年6月, 山形大学歴史・地理・人類学研究会.
- ・「地方都市の市街地再生事業が抱える問題点 - 山形県長井市を事例にして -」, 2009年10月, 東北地理学会.
- ・「環境整備事業に伴う生活圏拡張の可能性と課題 - 山形県長井市駅前親水公園事業を事例にして -」, 2009年10月, 東北地理学会

(2) 教育

教養教育: 都市論(地理学)

学部教育: 地理学基礎, 人文地理学概論, 地誌学, 環境地理学演習, 地域構造論演習, 環境地理学調査実習, 都市地理学調査実習, 共生人間学(一), 人間文化入門総合講義

大学院: 経済地理学特論, 経済地理学特別演習

(3) 地域連携

- ・山形県総合政策審議会特別委員
- ・山形県広域調整会議委員
- ・長井市経済再生戦略会議コーディネータ
- ・上山市観光マップコーディネータ

(4) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

わが国の大都市圏を対象にした科研費テーマに基づく計量的な分析を進める一方、東北地方の個別都市を対象にした研究成果も公表することができた。事例研究の蓄積は地域連携においても重要であり、学生指導も併せた現地調査を企画、実践することができた。

山根 純佳

(1) 研究成果

1. 著書

『なぜ女性はケア労働するのか 性別分業の再生産を超えて』勁草書房、2010 年 2 月

2. 論文

『なぜ女性はケア労働者になるのか 女性の行為主体性と性別分業の再生産・変動』東京大学大学院人文社会系研究科博士学位論文、2009 年 4 月

3. 書評

「荻野美穂著『家族計画への道 近代日本の生殖をめぐる政治』『インパクション』第 169 号、2009 年 6 月、99-100 頁。

「上野千鶴子他編『ケアその思想と実践 2 ケアすること』『女性労働研究』第 53 号、2010 年 1 月、172-175 頁

(2) 教育、地域連携等の活動

法政大学国際文化学部非常勤講師（「ジェンダー論」担当）

法政大学大学院国際文化研究科非常勤講師（「ジェンダー論」担当）

横山 敏

(1) 研究成果

[編著]

- ・横山敏編著『農山村青年の「生活記録」運動の歴史社会学的研究 米沢市南原地区（旧南置賜郡南原村）網木の事例』（2009（平成 21）年度社会調査実習報告書）、2009 年 3 月

(2) 教育、地域連携等の活動

[担当授業]

- ・教養教育：市民社会と大衆社会（社会学）
- ・専門教育：社会学演習、現代社会学演習、社会調査論演習、社会調査実習、社会学基礎、人間文化入門総合講義
- ・大学院：地域社会計画特別研究

[地域連携]

- ・山形県農業会議評価委員
- ・山形県社会福祉協議会社会福祉人材センター運営委員会委員長
- ・財団法人山形県情報社会学研究所理事
- ・山形県教育文化会議理事

(3) 平成 21 年度研究・教育活動に関するコメント

横山敏編著『農山村青年の「生活記録」運動の歴史社会学的研究 米沢市南原地区（旧南置賜郡南原村）網木の事例』は、3年目の継続研究の中間報告である。山形県は、現在一つの研究のトレンドとなっている、「生活記録」運動を生みだした地域であり。前年度来、首都圏・山形県の研究者10名を組織して研究を継続している。平成22年度において、米沢市網木の調査研究を締めくくり、理論的な課題に応える実証的成果をまとめる予定である。そののち、研究活動は、山形県全県の研究へと展開するだろう。

ライアン スティーブン

(1) 研究成果

2010.3.1-2. Presentation. How Cultural Schema Causes Cross-Cultural Conflict in an International Business Context. International Conference on Business, Economics and Information Technology (ICBEIT), Seoul, Korea.

2010. 3“An Exploratory Cross-Cultural Research Questionnaire: How Cultural Schemata May Disrupt Cross-Cultural Communication Between Japanese and English Speakers.” In Journal of History, Geography and Cultural Anthropology, Yamagata University. Vol.11, pp. 9-27.

2010. 2. Presentation. “Arizona in Terms of Its History, Culture and Education.” Japan Association of Language Teachers (JALT). Yamagata Chapter.

2009. 9. Presentation. Bringing Cultural Knowledge to the Surface to Better Understand Cross-Cultural Conflict in Specific Contexts. Intercultural Communication and Collaboration within and across Sociolinguistic Environments. World Conference 2009, Kumamoto Gakuen University, Kumamoto, Japan.

2009. 7 Presentation. Intercultural Communication. The International Association of Japanese Studies (IAJS). Yamagata city.

2009. 6. Presentation. Cultural Differences and the Japanese Educational System. Japan Association of Language Teachers (JALT). Yamagata Chapter.

(2) 教育，地域連携等の活動

Applied Linguistics Association of Australia (ALAA)
International Association for Intercultural Communication Studies (IAICS)
Society for Intercultural Education Training and Research (SIETAR)
Japan Association of Language Teachers (JALT)

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

Research interests include English language education, Intercultural Education and Training. Current research focuses on how cultural schema can result in cross-cultural conflict and misunderstanding.

渡辺 文生

(1) 研究成果

《学会，研究会などの口頭発表》

「ストーリーを語る作文における視点の表現の分析 An analysis of expressions of viewpoint in narrative writing」 ATJ2010 Annual Conference, Philadelphia, USA, 2010. 3. 25.

《出版物》

「講義の談話の引用と参照」佐久間まゆみ（編）『講義の談話の表現と理解』169-186. くろしお出版

「初級日本語学習者の教室外活動を支援するための教室内活動とその課題 学習者のレベルと日本語使用の不安の観点から」『日本語教育方法研究会誌』17, 1, 86-87. (澤恩嬉・後藤典子・山上龍子との共著)

(2) 教育，地域貢献等の活動

担当授業は，日本語学概論（一）・日本語学特殊講義・日本語学講読・日本語学演習・日本語（一）・言語学基礎《以上学部専門科目》，国語の教材研究 A《教職科目》，日本語意味論特論・特別研究《以上大学院科目》・教養教育科目（言語学）・教養教育科目（日本語）。

山形西高等学校において出張講義を行った（2009年12月12日）。

(3) 当該年度の研究，教育活動に関するコメント

研究活動に関しては，研究代表者および研究分担者として関わる科学研究費プロジェクトに関連した研究を中心に行った。

学生の指導については，日本語学コース3名の卒業論文，および大学院文化システム専攻1名の修士論文を担当した。

渡辺 将尚

(1) 研究成果

ワークショップ「声とテキスト」パネリスト

「戦後ドイツのラジオドラマ」というタイトルのもとに基調報告

「2009年度日本フランス語フランス文学会東北支部大会」

平成 21 年 11 月 28 日，於：山形大学

渡邊 洋一

(1) 研究成果

特になし

(2) 教育，地域貢献等の活動

a. 担当授業

実験心理学入門（教養教育科目），心理学基礎，心理学概論，心理行動論演習，心理学実験，心理学特殊実験，行動科学情報処理実習（以上専門教育科目），実験心理学特論，実験心理学特別演習（以上，大学院授業科目）。

b. 学外活動

日本自動車連盟（JAF）山形支部交通安全実行委員会委員（委員長）。

(3) 平成 21 年度教育研究活動に関するコメント

坂井正人先生代表の科学研究費補助金新学術領域研究「アンデス文明の盛衰と環境に関する学際的研究」の支援をうけて、平成 21 年 12 月 17 日～29 日まで出張し、ペルーのナスカ台地に立ち入って地上絵を詳細に観察することができた。きわめて有意義な現地調査であった。

【法経政策学科】

赤倉 泉

(1) 研究成果

なし

(2) 教育、地域連携等の活動

[担当授業]

- ・学部専門科目：アジア政治論、アジア政治論演習
- ・基盤教育科目：政治学入門、中国語

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究に関しては、毛沢東時代の政治および中国の民主化に関する研究を行った。教育に関しては、専門教育では現代中国についてさまざまな角度から取り上げ、学習効果を高めるために時事問題と絡めたり映像資料を用いたりして工夫した。基盤教育・政治学では、地域的话题を取り入れたり、選挙管理委員会の出前講座を利用したりした。

阿部 未央

(1) 研究成果

[論文]

- ・「介護事故と法的責任」季刊労働法 228 号 37-47 頁 (2010 年)

[判例評釈]

- ・「労働者派遣における「クーリング期間」と解雇 ラポール・サービス事件・名古屋高裁平成 19 年 11 月 16 日判決」山形大学法政論叢 47 号 49-61 頁 (2010 年)

(2) 教育・地域連携等の活動

[教育]

- ・担当授業 労働法、社会保障法、労働法演習ほかにウーマン・オブ・ヤマガタなど

[地域連携]

- ・人文学部主催の公開講座、第 3 回講師 (2009 年 10 月)
- ・人文学部・法学会主催の公開講演会を企画、実施 (2009 年 11 月)
- ・出前講義 岩ヶ崎高校 (2009 年 6 月)、米沢興譲館高校 (2009 年 7 月)
- ・社会保険協議会委員

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

昨年度に引き続き科学研究補助金を使い、非正規雇用問題に関する研究を進め、公刊に向けた作業を行っている。はじめての講義・ゼミを何とか終えることができた。

和泉田 保一

(1) 研究成果

・研究ノート

「都市計画法における広域自治団体と狭域自治団体の役割分担の変容」(2007 年度～2009 年度科学研究費補助金報告書『イギリスにおける行政サービス提供主体の変容に関する研究』pp.172-202)

(2) 教育、地域連携等の活動

・担当授業

行政法、行政法、行政法演習、総合講座(「公法」2 コマ)・(「条例による地域政策」)、キャリア・ガイダンス(「公務員制度」を担当)、人文学部公務員対策講座(集団討論 2 コマを担当)

・地域連携活動

[審議会委員]

山形県情報公開・個人情報保護審査会委員、山形県医療審議会委員、山形広域清掃工場建設事業及び運営技術審査委員会委員

[外部研修講師]

山形県民講座(「いまさら聞けない大人の社会学」- 行政) 公開講座(11 月)

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

初のゼミ合宿を新潟県十日町市で行い、「越後妻有アートトリエンナーレ 2009」及びその実施に関わる地方自治体の状況について調査した。

イギリス行政法研究会の科学研究費補助金により 1 週間ロンドンに滞在し、実地において研究を深めることができた。

岩田 浩太郎

(1) 研究成果

[論文]

・「地租改正期の農業構造に関する基礎データの検討 - 山形県村山地方の立附米調査の史的考察 -」(『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』第 6 号, 2009 年 8 月, 45 ~ 99 頁)

[学会報告]

・「2009 年度歴史学研究会大会近世史部会曲田報告批判」(歴史学研究会近世史部会, 2009 年 8 月 1 日, 於東京大学本郷キャンパス法文 1 号館)

[その他]

・「特集にあたって - 地域史研究と史料・方法の開拓 -」(『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』第 6 号, 2009 年 8 月, 1 ~ 4 頁)

・科学研究費補助金成果報告書「基盤研究(C) 出羽山形の地域特性の歴史的展開に関する基礎的研究 - 山形地域史の再構築 -」(研究代表者, 課題番号 19510244, 電子版, 2009 年 6 月)

・「曲田浩和氏の報告を聞いて - 歴研大会報告批判 -」(『歴史学研究月報』第 603 号, 歴史学研究会, 2010 年 3 月, 4 ~ 5 頁)

[人文学部プロジェクト研究]

・人文学部・地域史プロジェクト「出羽山形の地域特性の歴史的展開に関する基礎的研究 - 山形地域史の再構築 -」(研究代表者)

研究メンバー (岩田浩太郎・菊地仁・松尾剛次・三上喜孝・伊藤清郎) による公開研究会を 2 回開催 (通算 19 回, 2004 年 11 月～2009 年 6 月。地域史プロジェクト研究会の第一期を終了)

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業科目]

- ・教養教育科目: 山形の歴史 (経済学)
- ・専門教育科目: 日本経済史, 地域経済史, 日本経済史演習, 法経政策学基礎演習
- ・大学院: 日本近世史特論, 歴史文化特別研究
- ・集中講義: 岡山大学文学部日本史講義 (2009 年度前期集中・2 単位) 「日本近世の地域社会論」, 2009 年 9 月 1 日～4 日, 履修者 89 名, 於岡山大学津島キャンパス文法経済学部講義棟
- ・教員免許状更新講習: 地域史の視点と方法 (6 時間, 中学校教諭 (社会)・高等学校教諭 (地歴), 於山形大学小白川キャンパス人文学部 2 号館)

[委員会活動]

- ・学部: 法経政策学科人事調整委員, 山形大学紀要 (社会科学) 編集委員会編集責任者 (「小白川図書館長への要望書」作成・提出), 科研費説明会報告「第 2 段審査について」(2009 年 10 月 7 日), 人文学部研究年報論文審査委員
- ・全学: 附属図書館運営会議委員, 「小白川キャンパス運営会議に対する要望」作成・提出, 「学内諸規則整備 WG への意見について」作成・提出, 「附属博物館長への申入書」作成・提出

[講演・講座]

- ・山形最上紅花の会主催: 平成 21 年度「紅花大学」基調講演「最上紅花商人と商業活動」, 2009 年 5 月 31 日, 於ファラ男女共同参画センター (約 40 名参加)
- ・NPO 法人柏倉家文化村主催: 「柏倉家文化村まつり」における山形大学人文学部日本経済史 (岩田) ゼミナールによる柏倉家調査報告「九左衛門家の紅花作りと畑作について」, 2009 年 10 月 11 日, 於東村山郡中山町岡 柏倉九左衛門家北蔵 (約 40 名参加)

[社会活動]

- ・日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 (S)) 研究進捗 (事後) 評価委員 (評価意見書の作成・提出)
- ・NPO 法人「柏倉家文化村」顧問 (山形県東村山郡中山町柏倉九左衛門家・柏倉惣右衛門家の調査研究, ひな祭りボランティア協力)
- ・柏倉九左衛門家初堂所蔵古文書の整理保存・目録作成作業
- ・奥羽史料調査会世話人 (宮城県柴田郡村田町大沼正七家文書整理・目録作成・調査研究など)
- ・山形大学職員組合執行委員会副執行委員長 (2009 年 7 月～2010 年 6 月)
- ・熊本県熊本市の旧家から依頼された古文書資料の調査・整理保存へのアドバイス
- ・山形県山形市の旧家からの古文書寄託の要望への対応 (本学附属博物館への申し入れなど)
- ・山形県西村山郡河北町谷地の旧家の古文書目録の採録への参加・協力
- ・山形大学所蔵古文書に関する市民からの問い合わせへの対応
- ・地元市民から依頼された研究論文・地誌の作成執筆に関わる指導・助言

[その他]

- ・「全学センター移管をめぐる『超法規的な措置』の問題点」(『山大職組情報』2009 年度第 2 号, 2009 年 7 月, 1～6 頁)
- ・「第 1 回理事交渉報告」(『山大職組情報』2009 年度第 12・14 合併号, 2009 年 11 月, 1～6 頁)
- ・「学長選考制度の改善を求める声明」(『山大職組情報』2009 年度号外, 2010 年 1 月, 1～4 頁)
- ・「石島先生と山形近代史研究会」(『石島庸男先生追悼集 北天の碩学』山形県教育文化研究会議, 2010 年 3 月, 27～29 頁)

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動等に関するコメント

平成 21 年度活動の特徴としては、教免更新講習、岡山大学での集中講義、山大職組執行委員としての活動など、通常の業務に加えた活動を要請に応じて実施したことが挙げられる。

研究教育では、西村山郡河北町谷地の榎家文書や東村山郡中山町岡の柏倉家文書、天童市山口の伊藤家文書などをもとに、地租改正期に羽州村山郡で実施された立附米調査の歴史的意義について考察した。当郡における地主制形成期の基幹史料である同調査の意図・実施過程をふまえて同調査がもつ史的な意義と限界をあきらかにし、その上で新町村を事例に一村全戸レベルの網羅的なデータの抽出を試みた。この作業は今後の同郡における地主小作関係をはじめ農業構造研究の基礎となるものである。また、歴史学研究会近世史部会運営委員会からの依頼に応じておこなった 2009 年度歴研大会報告批判を通じて、産業史の観点による近世後期地域社会に関する議論に参加した。岡山大学文学部での集中講義では、これまでの羽州村山郡をフィールドにした事例研究につき地域特性をふまえながら普遍化する形で日本近世地域社会論のなかに位置づける考察を試み、学部生・大学院生に講述した。教員免許状更新講習では山形東高をはじめ県内外の中学校・高校の先生方に私なりの地域史研究を紹介し中等教育課程における地域史学習の意義につき講述した。

社会活動では、県内外の旧家からの古文書整理保存の要望に対応する活動を継続し、さらに「紅花大学」での基調講演など地元市民の生涯学習に携わった。

科研費審査に関わっては、日本学術振興会より大型科研の進捗評価委員を委嘱された。また、平成 19・20 年度に務めた日本学術振興会科研費委員会専門委員（第 2 段審査委員）としての経験にもとづき、人文学部目標評価委員会研究活動推進部会からの依頼を受けて学内の科研費説明会で科研費審査の仕組みとポイントについて報告した。

殷 勇

(1) 研究成果

I. Kaku, J. Gong, J. F. Tang and Y. Yin "Modeling and numerical analysis of line-cell conversion problems", *International Journal of Production Research*, Vol. 47, No. 8, pp. 2055-2009, 2009.

Y. Yin "The economic cell number", *International Journal of Advanced Manufacturing Technology*, Vol. 44, nos. 5-6, pp. 625-630, 2009.

Y. Yin, C. Xu and L. Hu "Some insight into Yasuda et al. "a grouping genetic algorithm for the multi-objective cell formation problem"", *International Journal of Production Research*, Vol. 47, No. 7, pp. 2009-2010, 2009.

C. G. Liu, K. Yasuda, Y. Yin and K. Tanaka "Uncertain association rule mining algorithm for cell formation problem in cellular manufacturing systems", *International Journal of Production Research*, Vol. 47, No. 3, pp. 667-685, 2009.

(2) 教育、地域連携等の活動

特になし (留学のため)。

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究については、著名ジャーナル「*International Journal of Production Research*」に三本の論文を掲載されたことは、まずまずの成果です。

教育については、留学のため、特にはないです。

上野 芳昭

(2) 教育，地域連携等の活動

講義：「民法総則・物権総論」，「契約法入門」，「債権各論」

演習：「民法演習」

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

共同不法行為の研究は，民法 709 条の機能領域との境界線を何処に引くか，で難しいことになっている。判例理論の「客観的関連共同」という基準では，あまりに多くの cases が，共同不法行為の問題になってしまうのである。

Digesta の法文の actio に関するものの読み込みに取りかかった。

平成 21 年度のゼミ生は，19 名いて，レポートの準備なども，よくやってくる学生諸君だった。

小笠原 奈菜

(1) 研究成果

[論文]

「当事者が望まなかった契約の適正化と情報提供義務 契約関係維持を中心として (1)」山形大学法政論叢 第 47 号 63 頁

[口頭発表]

「フランチャイズ・チェーン運営者の加盟店に対する報告義務」(東北大学民法研究会，2009年11月19日，於 東北大学河内キャンパス)

(2) 教育，地域連携等の活動

[担当授業科目]

- ・教養教育科目：判例を読もう(教養セミナー)，基礎演習
- ・専門教育科目：債権総論・担保物権，民法演習
(オムニバス方式)総合講座(法律)，公務員試験対策セミナー
- ・大学院：比較契約法特論，比較契約法特別演習

[地域連携]

山形弁護士会主催判例研究会

[公開講座]

<法を知って暮らしを守ろう>「中古マンションを買ったら自殺物件だった！」

[出張講義]

いわき光洋高校

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

科学研究費補助金(若手研究(スタートアップ))の最終年度として，成果を一部公表することができた。教育・地域連携については，学部1年生向けの演習，一般市民向けの公開講座，高校生向けの出張講義を新たに担当し，教養として，民法をわかりやすく教えるよう努力した。

緒方 勇

(1) 研究成果

[著書・報告書]

【書籍】『工業簿記・原価計算の基礎 理論と計算』税務経理協会，2009 年 4 月。(共著。緒方は 14・15 章担当)

【論文】緒方勇・佃良彦，「無形資産投資効果の持続性——日本企業における実証研究——」，『山形大学人文学部 研究年報』，第 7 号，101-120 頁，2010 年。

(2) 教育，地域連携等の活動

[担当講義] 管理会計，管理会計演習，法経政策学基礎演習，経営分析入門，情報処理，管理会計特論(大学院)，管理会計特別演習(大学院)

[地域連携活動]

- ・山形仙台圏交流研究会にメンバーとして参加

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究に関しては，無形資産投資の持続性に関する実証研究を行った。また，教育活動については，学生が理解できる授業を目標とし，分かりやすくして理解しやすい資料を作ることを心掛けている。

貝山 道博

(1) 研究成果

[論文]

- ・「道路整備における費用・便益分析 - ガソリン税を考慮した場合」『山形大学紀要(社会科学)』第 40 巻第 1 号，pp17-32

(2) 教育，地域連携活動

[担当授業]

- ・学部：財政学(前期・後期)，経済数学(前期・後期)，財政学演習(通年)，経済学の基礎(経済学)(前期)
- ・大学院：財政学特論(前期)，財政学特別演習(通年)
- ・他機関(非常勤)：開発経済学(埼玉大学)(前期集中講義)，産業と経済(放送大学山形学習センター)(前期集中講義)，統計情報分析力(山形県職員育成センター)(90分/回，計2回)

[地域貢献活動など]

- ・学外：東北地方社会保険医療協議会山形部会長，山形県長寿医療懇談会長，上山市行財政改革推進市民委員会会長，東北地方整備局入札監視委員会委員，地域公共交通の広域移動ニーズ対応調査検討委員会委員
- ・学内：山形仙台圏交流研究会座長
- ・その他：応用地域学会の全国大会を実行委員長として山形大学で実施し，地元向けシンポジウム「自然の恵みから生まれた『地域ブランド』の創出が地域を変える」および「環境とエネルギー」を企画し，実行した。

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

山形大学附属学校運営部長として，1年間附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の教育・研究活動の統括的管理・運営にあたった。

私が研究代表者になっている科研費(基盤(C))の研究「地域公共交通システムのあり方 - デマ

ンド交通を中心として」についての調査・研究を行った。

その他に、是川晴彦教授が研究代表者となっている科研費（基盤（C））の研究「中心市街地活性化」にも分担研究者として加わり、調査・研究を行った。

学部教育に関しては、通常のノルマをこなしたが、経済数学の講義については、工夫をしたせいもあって、前期 48 名、後期 56 名という予想を超える履修者があった。

大学院教育については、1 名の学生の研究指導を行った。担当した学生は立派な修士論文を作成し、無事 2 年間で修了することができた。

金子 優子

(1) 研究成果

論文

『Role of Citizens in Environmental Conservation: The Case of the Yokosuka City; A Statistical Analysis』, Public Organization Review, Volume 10, Number 1, Springer Netherlands, オンライン 2009 年 7 月 31 日, 印刷物 2010 年 3 月 1 日

学会発表

『公益法人の産業別・従業者規模別の活動実態 - 行政記録と統計調査の完全照合データを用いた分析 -』, 2009 年度 統計関連学会連合大会, 同志社大学・京田辺キャンパス, 2009 年 9 月 7 日

『公益法人に係る行政記録と統計調査の完全照合データの作成と同データを用いた公益法人の活動実態分析』, 2009 年度新領域融合プロジェクトによる研究会「大規模データ・リンケージ, データマイニングと統計手法」, 国立情報学研究所, 2009 年 10 月 9 日

『特例民法法人（旧公益法人）の産業分野別活動実態』, 2009 年度生活経済学会関東部会, 成城大学, 2009 年 10 月 25 日

国際会議での発表

『Reform of Special Accounts and the Postal Privatization』, 国際行政学会ヘルシンキ国際会議, 2009 年 7 月 10 日

(2) 教育, 地域連携等の活動

担当科目: 行政学, 公共政策論, 日本国憲法, 技術進歩と行政, 行政学演習, 総合講座 (公共政策), 行政学特論, 行政学特別演習

外部での講演

山形市議会における講演, 山形市議会会議室, 2009 年 10 月 6 日

最上地区町村議会議員への講演, 肘折いでゆ館内多目的ホール, 2009 年 10 月 16 日

荘内三町議会議員への講演, 庄内町役場, 2009 年 10 月 29 日

新庄市議会議員への講演, 最上広域交流センター「ゆめりあ」内会議室, 2009 年 11 月 26 日

外部研修講師

山形市職員研修「行政法研修」講師 2009 年 9 月

審議会委員

第 29 次地方制度調査会委員

山形県市町村合併推進審議会委員
東根市情報公開・個人情報審査会委員
村山公立病院情報公開・個人情報審査会委員
山形市行財政改革推進懇話会委員

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究活動については、外部研究資金（19-20 年度科学研究費補助金 基盤研究 C 研究課題番号：19530229 「経済社会における公益法人の活動実態と期待される新たな役割に関する研究」）を得た研究の成果を外部に発表することができた。また、日本学術振興会から委託を受けた二国間交流事業共同研究「地方行政改革における非営利セクターの役割に関する日韓比較研究」の第二年次として、日本と韓国において研究調査を進めることができた。

教育活動については、プレゼンテーションソフトを利用することにより分かりやすい講義となるように努めた。また、行政実務家を招請して行政の現場についての講義を行っていただき、大学教育と実社会との連携に努めた。

北川 忠明

(1) 研究成果

<論文> 「多様性」に開かれた共和国 A. ルノーの応用政治哲学」、『彦根論叢（滋賀大学）』、査読有、第 383 号、55-76 頁、2010 年 3 月。

<その他> 政治思想学会理事。

(2) 教育、地域連携等の活動

<教育> 『政治理論』、『政治理論演習』、『地域公共政策論』（以上学部）、『現代政治入門』（教養教育）、『現代政治論特論』、『現代政治論特演』（以上大学院）

<地域連携> 長井市経済再生戦略会議委員
山形県土地収容事業認定審議会委員
山形県明るい選挙推進協議会委員の他、
人文学部地域連携室長としての活動。

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では、論文を 1 本しか公表できなかったことは残念だが、科研費の研究テーマ「19 世紀末フランスにおける「共和国モデル」形成の政治思想史的研究」をまとめる目途をつけることはできた。

他方、教育面では、『政治理論』の授業において、学生の興味を引くよう、新しいテキストに基づき、基礎的問題でありながら現代的問題に取り組んだ。

國方 敬司

(1) 研究成果

編著書

・國方敬司・永野由紀子・長谷部弘編 『家の存続戦略と婚姻：日本・アジア・ヨーロッパ』（刀水書房、2009 年）

論文

・「婚姻と家の存続 「はじめに」として」 國方敬司・永野由紀子・長谷部弘編 『家の存続戦略と婚姻』

(2) 教育, 地域連携等の活動

担当授業

・西洋経済史, 環境と経済, 西洋経済史・環境と経済演習, 教養教育 (経済学), イギリス経済史特論
非常勤講師

・東北公益文科大学「環境経済学」, 山形短期大学「くらしと経済」

出張講義

・「環境政策の考え方」 ペットボトルリ・サイクルの問題点 (福島県立郡山東校等学校)

講演等

・「食の安全と安心の確保について地産地消を通して考えてみよう」 パネルディスカッション・コーディネーター「食の安全フォーラム」(遊学館)

・「ひがしねの未来を考える」東根市まちづくり研修会 (東根市庁舎)

・「~求める 求められる~正しい食品表示」 パネルディスカッション・コーディネーター 食品表示ミニトーク in やまがた (遊学館)

学会役員

・比較家族史学会理事

・社会経済史学会評議員

審議会委員等

・三浦新七博士記念会評議員

・山形新聞報道審査会委員

・「子育てするなら山形県」推進協議会委員

・山形県消費生活審議会委員

・「やまがた ECO マネジメントシステム」外部評価委員

・山形県食の安全推進会議委員

・山形市清掃問題審議会委員

・山形市中央卸売市場運営協議会委員

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

論文集の編集に力点を置いたために, 論文の数は物足りない。

コーエンズ 久美子

(1) 研究成果

[論文]

・「預金の帰属と優先的返還請求権 英米法の信託法理の検討を手がかりとして」山形大学法政論叢 44・45 合併号 (2009 年 5 月)

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業] 商法, 商法, 商法演習, 企業と法 (教養科目), 商法特論 (社会システム研究科), 国際商取引法 (理工学研究科)

[地域連携活動] 山形県消費生活審議会委員

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

これまでの証券振替システムに関する研究のアプローチを資金移動システムに当てはめ, とりわけ誤振込の事案につき信託法理を基礎とした「優先的返還請求権」の可能性を示唆した。

教育に関し, 演習では学生自身が自分で問題の所在を明確にし, それについて理論的かつ説得的に自分の見解を発表することができるよう, 特に個別レポートの指導に力を入れた。

小嶋 明美

(1) 研究成果

- ・「職権探知主義の規整 - 中国民事訴訟法を素材として - (2)」山形大学法政論叢 44・45 合併号 43 - 70 頁 (2009 年 4 月)
- ・「職権探知主義の規整 - 中国民事訴訟法を素材として - (3)」山形大学法政論叢 46 号 1 - 24 頁 (2009 年 10 月)

(2) 教育，地域連携等の活動

[担当科目]

民事訴訟法，民事訴訟法，民事訴訟法演習，法と裁判，法経政策学基礎演習，総合講座

[出張講義] 北海道札幌北陵高等学校 (2009 年 11 月)

[地域連携等]

- ・山形地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員
- ・講演「現代中国の民事裁判」(弘前大学人文学部主催による連続講演会・シンポジウム「裁判員制度と世界の司法動向 市民の司法参加の意義を考える」)。於：弘前大学。2009 年 10 月)

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究においては，前年度に続き，我が国民事訴訟法改正後の訴訟運営のあり方について検討し，手続構造と訴訟運営について日中民事訴訟の比較研究を行った。

教育においては，高校生を対象とする出張講義，入門的位置づけの総合講座の講義を行うにあたり，受講生に合わせた理解しやすい講義のための工夫をした。

是川 晴彦

(1) 研究成果

[科研費成果報告書]

- ・「中心市街地活性化の理論的研究 - 地域資源の類型化と経済理論による考察 - 」(研究代表者)

[学会での活動]

- ・東北経済学会におけるパネルディスカッションの企画と司会 (「中心市街地活性化を考える」)

(2) 教育，地域連携などの活動

[担当授業]

- ・学部：ミクロ経済学，応用ミクロ経済学，公共経済学，教養教育，ミクロ経済学演習
- ・大学院：公共経済学特論，公共経済学特別演習

[地域貢献活動など]

- ・山形県行政支出点検・行政改革推進委員会委員長
- ・山形県指定管理者審査委員会の外部委員
- ・山口市中心市街地活性化に関するコメント (朝日新聞山口版に掲載)
- ・秋田市中心市街地活性化に関するコメント (朝日新聞秋田版に掲載)
- ・民生委員を対象とした研修会の講師 (新庄市)
- ・山形仙台圏交流研究会における報告

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

中心市街地活性化に関する研究では，研究代表者として科研費研究 (「大型店撤退後の中心市街地

再開発における経済行動分析」：基盤研究 C) が採択された。前橋市、高知市、長野市などにおいて実態調査やヒアリングを行った結果、大型店撤退後の跡地利用や地権者の意思決定に関する有益な知識や情報を得ることができた。また、他の科研費研究における研究分担者として、福島県南相馬市におけるデマンド交通システムの実態調査を行った。課税理論の研究では、不完全競争市場を対象とした分析を継続した。

平成 21 年度には、東北経済学会が山形大学人文学部を会場として開催された。学会評議員の協力を得て、無事、大会を実施することができた。学会では、山形大学まちづくり研究所のメンバーや商店街振興組合事務局長をパネリストとして中心市街地活性化に関するパネルディスカッションを行ったが、フロアからも活発に質問があり、盛会であった。

教育面では、前年度と同様、配布資料の更新を行った。特に、受講生にとって要点が整理しやすい配布プリントになるように工夫した

今野 健一

(1) 研究成果

- ・判例解説書 (共著)：『基本判例 1・憲法 [第 3 版]』[右崎=浦田編] (法学書院, 2009. 10) 版を改めるに際して新たに 2 つの判例解説を執筆

(2) 教育, 地域連携等の活動

担当授業科目

- ・学部専門科目：憲法 , 憲法 , 憲法演習 , 法経政策学基礎演習, 総合講座 (法律) 等
- ・教養教育科目：日本国憲法, 教養セミナー

地域連携活動

山形市情報公開・個人情報保護審査会委員, 山形県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員

(3) 当該年度の研究, 教育活動に関するコメント

研究面では、セキュリティに関する研究を進めたが、成果発表には至らなかった。教育面では、専門科目「総合講座 (法律)」で取りまとめ役を務めた。

澤田 裕治

(1) 研究成果

- ・翻訳：澤田裕治 (訳), マーガレット・H・カー著「重罪私訴追のアンジュー改革 (1)」(『山形大学紀要 (社会科学)』40 巻 2 号, 2010 年 2 月, 査読有)
- ・論文：「今なぜ安達峰一郎研究が必要か？」(『山形学研究』第 7 号, 2010 年 1 月)
- ・講演：「今なぜ安達峰一郎研究が必要か？」(2009 年 6 月 19 日, 於山辺町北部公民館)
- ・講演：「安達峰一郎と世界平和への道」(2009 年 8 月 26 日, 於山辺町商工会)
- ・講演：「安達峰一郎をめぐる諸問題 「世界の良心」安達峰一郎と日本国憲法」(2009 年 12 月 19 日, 山形大学都市・地域学研究所 / 安達峰一郎研究会公開研究会, 於山形大学人文学部)

(2) 教育, 地域連携等の活動

平成 21 年度の担当授業の紹介

[山形大学における講義・演習等]

- ・教養教育科目：基礎から考える法学, 基礎からの民法

- ・専門教育科目：法経政策学科基礎演習，西洋法制史，西洋法制史演習
- ・その他：自主ゼミ「ドイツ語で考える法律学」を開講

[山形県立保健医療大学における講義] 法学

[山形県立産業技術短期大学校における講義] 法学概論

[山形市立病院済生館高等看護学院における講義] 関係法規

地域貢献活動

山形大学医学部附属病院医薬品等受託研究審査委員会委員

山形県立保健医療大学倫理委員会委員

出張講義（國學院大學栃木高校「世界の良心」安達峰一郎と日本国憲法，2009年10月31日）

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究では，私訴追に関する研究と不法行為法の比較法的研究を継続した。

教育では，教養教育科目において，『対話 Dialogue』と題するミニコミ誌を毎回発行し，学生同士と教員の相互コミュニケーションを図り，講義内容の血肉化する努力を継続し，受講生から好評を得た。

下平 裕之

(1) 研究成果

[著書]

- ・平井俊顕編著『市場社会論のケンブリッジ的展開』（第7章「マクレガーとロバートソン」）日本経済評論社，2009年7月。

[書評]

- ・Gordon Fletcher, Dennis Robertson, Basingstoke: Palgrave Macmillan, 2008 『経済学史研究』51(2), 2010年1月。

[研究会報告]

- ・「スラッファによるハイエク批判の翻訳について」（第23回経済思想研究会，2009年4月26日，東北工業大学）
- ・「書評：Gordon Fletcher 著 Dennis Robertson（2008）」（第24回経済思想研究会，2009年8月8日，東北工業大学）

(2) 教育・地域連携等の活動

・教育活動

山形大学における担当授業：

[学部] 経済思想，経済学史，経済学史演習，法経政策学科基礎演習，地域づくり特別演習（夏季集中），公務員講座（講義，小論文指導）

[教養教育] まちづくり入門，業界研究事始め，最上川俯瞰講義，最上川の自然と文化

[大学院] イギリス経済学史特論，イギリス経済学史特別演習

非常勤：羽陽短期大学（経済学），東北大学（経済学史）

・地域連携活動

高校での出張講義・学部説明会：長井高校，泉館山高校，新庄北高校

青森県消費者問題研究会における講演（2009年6月）

金山町公民館大会における講演（2009年11月）

山形財務事務所財務モニター

村山地域ランドデザイン推進会議座長

大学コンソーシアムやまがた総務運営委員長

コンソーシアム学生交流会 (2009 年 8 月・小国町) でのワークショップ指導

山形大学まちづくり研究所・仙山圏交流研究会への参加

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究活動については、ケンブリッジ学派の市場社会論に関する共同研究の成果を共著として出版した。教育・地域連携活動については「大学コンソーシアムやまがた」における「最上川学教育研究プロジェクト」に関連した 2 つの新たな科目を立ち上げた。様々な大学の教員間の調整やフィールドワーク計画の策定など課題も多かったが、学生からはおおむね好評であった。

真保 智行

(1) 研究成果

[論文]

- ・Nagaoka, S., Tsukada, N. and Shimbo, T., “The structure and the evolution of essential patents for standards: Lessons from three IT standards”, Cantner, U., Gaffard, Jean-Luc., Nesta, Lionel., Schumpeterian perspectives on innovation, competition and growth, Springer, 2009.

[報告書]

- ・中村健太・真保智行・長岡貞男「特許の審判及び異議申立に関する経済学的分析」『平成 21 年度我が国の持続的な経済成長にむけた企業等の出願行動等に関する調査報告書』財団法人知的財産研究所, pp. 80-141, 2010 年 3 月

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ・担当授業: 「経営学」「経営戦略論」「経営学演習」「総合講座」「教養セミナー(経営学入門)」「企業経営特論」「企業経営論特別演習」
- ・出前講義: 楯岡高校
- ・その他: 財団法人知的財産研究所「我が国の持続的な経済成長にむけた企業等の出願行動等に関する調査委員会」委員(特許庁委託研究)

(3) 平成 20 年度の研究・教育活動に関するコメント

今年度は授業準備に時間がかかり、新たな研究をあまり進めることができなかった。ただ、共同研究を通じて、今後の研究に必要なデータ等を確認することができた。

鈴木 明宏

(1) 研究成果

[論文]

“提携形成モデルを用いた市町村合併のゲーム論的考察 広島県江田島市の事例に基づいたシミュレーション分析”,

山形大学大学院社会文化システム研究科紀要 第 6 号, 35-45, 2009.

[ディスカッション・ペーパー]

“Do haves count have-nots' work? evidence from the dictator game experiments,” 山形大学人文学部法経政策学科 Discussion Paper Series 2009-E02, 2009.

[学会等報告]

“Group decision, distant place and donation in the experimental

dictator games,” International Conference How and why economists and philosophers do experiments: dialogue between experimental economics and experimental philosophy (会場：京都産業大学)，2010. 3.

(2) 教育，地域連携等の活動

【教育】

・担当科目：ゲーム理論，産業組織論，意思決定論演習，現代の経済理論（工学部）

【地域連携等】

・まちづくり研究会・仙山交流研究会への参加
・山形県立北村山高等学校への出張講義

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

論文は協力ゲームや提携形成の現実への応用として書かれたものである。また，近年では経済実験も行っており，上記の DP・学会報告はその成果の一部である。DP は海外雑誌へ投稿中である。また，出張講義においても前年度に引き続き簡単な教育用実験を行っている。

研究・教育活動の詳細は前年度までと同様，自身の Web サイト（人文学部の教員一覧にリンクあり）に掲載している。

鈴木 均

(1) 研究成果

SGCIME 研究会で EU 経済の現状について報告した。

(2) 教育，地域連携の活動

a) 教育

教養教育の経済学（「世界経済を読む」）前期に講義をした。専門教育は国際経済論の前期・後期，ヨーロッパ経済論の前期・後期を担当した。大学院では EU 経済特論，国際経済法務特別研究で修士課程を教育した。

b) 地域連携

雇用能力開発機構山形センターの公益委員を担当している。

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

私的にさまざまなことが有り，研究活動は頓挫したが，次年度のための執筆は継続した。教育活動ではゼミで，卒論を課し，それを指導した。

砂田 洋志

(1) 研究成果

・「閾値自己回帰モデルの生産者製品在庫率指数の変化率への応用とモデル選択 ペイジアン・アプローチ」，山形大学紀要（社会科学），第 40 巻第 1 号，2009 年 7 月，pp1-16.
・「動学的因子モデルの山形県データへの応用 - 山形県 Composite Index のベイズ推定 -」，2009 - E05，2009 年 8 月，22 ページ。

(2) 教育，地域連携等の活動

担当授業

・計量経済学，統計学，専門演習（学部），経済学（教養教育），計量経済学特論・特別演習（大学院）
・計量経済学基礎（東北公益文科大学・大学院），統計学（東北芸術工科大学）

地域連携

- ・山形県市町村職員共済組合における学識監事
- ・山形・仙台圏交流研究会への参加
- ・山形県統計利用アドバイザー

(3) 平成21年度の研究・教育活動に関するコメント

計量経済学関係の研究として、閾値自己回帰モデルの経済データへの応用を試みた。また山形県の景気については動学的因子モデルを用いた実証研究を行った。

中心市街地活性化の研究では、長野市へ行き、「大型店撤退後の中心市街地再開発における経済行動分析」という題目の科学研究費補助金の分担研究者として調査を行った。

デマンド交通の研究では、福島県南相馬市へ行き、「高齢地域における地域公共交通システムのあり方：デマンド交通システムを中心として」という題目の科学研究費補助金の分担研究者として調査を行った。

教育関係では、講義ノートを配布するなどして、学生の理解を深めることに力を注いだ。また、専門演習では、2名の学生の卒業論文を指導した。

高倉 新喜

(1) 研究成果

- ・高倉新喜「現行犯逮捕およびその後の留置が違法ではないとされた事例」『速報判例解説』5号(2009年)181-184頁
- ・田口守一他編『確認刑事訴訟法用語250』(成文堂,2009年)86-87頁,90-93頁[高倉新喜執筆]
- ・口頭発表「裁判員裁判の量刑判断における市民感情の反映」
科研基盤(A)「刑事法学と心理学—刑事裁判心理学の構築に向けて」
平成21年度ワークショップ(2010年2月21・22日北海道大学)

(2) 教育、地域連携等の活動

- ・専門科目：刑事訴訟法
刑事法基礎
刑事訴訟法演習
総合講座Ⅱ(刑事法3・刑事法4)
- ・教養科目：裁判員制度(法学)
刑事手続における犯罪被害者の地位(法学)
- ・地域連携
出張講義：山形県立鶴岡中央高等学校(テーマ：「裁判員制度」)
山形県介護保険審査会委員
取材協力：TUY, さくらんぼテレビ, 山形放送, NHK山形, 山形新聞, 朝日新聞, 河北新報

(3) 平成21年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面においては、科研基盤(A)「刑事法学と心理学—刑事裁判心理学の構築に向けて」の分担研究者として、「裁判員裁判の量刑判断における市民感情の反映」についての研究成果を発表することができた。

刑事訴訟法演習においては、現行刑事訴訟法施行60周年および裁判員法元年の年に、これまでの刑訴法と未来の刑訴法について学生とともに考えることができた。また、えん罪事件への学生の関心の高まりを受けて、足利事件を中心としたテーマで討論が行われた。さらに、現地学習として、山形

刑務所見学と置賜学院見学を実施することができた。

教養教育においては、裁判員制度への学生の関心が高まり、「裁判員制度（法学）」に 200 名を超える履修があった。

2009 年 5 月から裁判員制度が実施されたことに伴い、裁判員裁判に関する取材が増えた。

高橋 和

(1) 研究成果

学会報告

「越境地域協力と国境管理——シェンゲン圏の拡大をめぐる——」

国際関係系研究会，2010 年 3 月 30 日，於 二松学舎大学

(2) 教育，地域連携等の活動

(教育)

・専門科目 国際関係論，国際公共政策，地域の国際化，政治学入門
国際関係論演習 を担当

・大学院 国際関係特論，国際関係特別研究を担当

(地域連携等)

・出張講義 宮城学院高等学校

・山形県労働委員会公益委員

・山形労働局 最低賃金審議会公益委員

・山形県公立学校評価委員

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

教育では、学生の授業への参加を促すところみとして「政治学入門」で毎回のワークシートによる授業内容のチェックとクリッカーの使用による授業を試みた。

大学院の授業では、上記の授業を行うとともに修士論文の指導を行った。

田北 俊昭

(1) 研究成果

・研究論文

田北俊昭・宮川佑子：購買活動における「商品情報」の収集手段選択モデルの開発，山形大学紀要（社会科学），第 40 巻，第 2 号，2010. 2

・研究発表

田北俊昭・岡田真郁子：農産物の商品特性を考慮した「地域ブランド」の評価 - 山形県産「さくらんぼ」は、山梨産さくらんぼに対抗できるか？，第 112 回地域科学ワークショップ，東北大学大学院情報科学研究科，2010. 3

田北俊昭・白鳥則郎・菅沼拓夫：「仮想都市」と「現実都市」を融合したハイブリッドシティにおける放送局の分類とその可能性 - 北海道放送の「洞爺湖サミット」報道の疑似生中継と関連イベントの開催 - ，東北大学大学院情報科学研究科，2010. 3

(2) 教育・地域連携の活動

地域連携としては、都市・地域・交通計画全般，農業・食・工業等の知的財産（種苗法・商標，意匠，特許）と地域ブランド構築，情報通信基盤整備等について，県内市町村での相談に応じるとともに，以下のような研究会を開いている。

研究活動として、地域経済分析を行うためには、地域を知ること重要であるので、積極的に、研究室の学生参加をすすめている。

「赤湯温泉を核にした地域・デスティネーションブランドの戦略と将来の可能性
～夕鶴の里・白龍湖伝説・熊野大社～」、赤湯温泉地域広域観光連携に関する研究会、南陽市えくぼプラザ、2010年、3月
「飯豊町における地域・デスティネーションブランドの戦略と将来の可能性～やまゆりの里づくり～」、山形県飯豊町・中津川まちづくり協議会、山形県飯豊町中津川公民館、2010年3月

また、本年度は、応用地域学会のプログラム委員として、学術機関と県内市町村との地域連携事業を行った。本学大学生も参加するプログラムを実施した。連携した自治体・地域としては、米沢市・上市市・南陽市・高畠町・飯豊町である。

「東洋のアルカディアにおける「地域ブランド」の発掘および豪雪地の環境プロジェクト、「天地人」の愛」、第23回応用地域学会エクスカッションコーディネーター、2009年12月

(3) 平成21年度の研究・教育活動に関するコメント

今年度は、応用地域学会研究発表会の山形大学開催し、関連プログラムとしての地域連携シンポジウム「自然の恵みから生れた地域ブランドが地域を変える」、料亭「千歳館」での地域ブランド関係の食の集い等を実施し、思い出深い年となった。

役職 第24回 応用地域学会発表会委員・プログラム委員、2009
山形大学都市地域学研究所（松尾剛次所長）事務局長（2006.4～2010.3）
査読 Review of Urban & Regional Development Studies, 2009.7

立松 潔

(1) 研究成果

論文：

「新自由主義改革の帰結と日本資本主義」（労働運動研究会『連合運動 20年の検証と労働運動の課題』えるむ書房発行）pp. 10-35

「転機に立つ山形県の産業経済」（『山形県の社会経済・2009年々報第22号』山形県経済社会研究所発行）pp. 5-19

著書（共著）

山形大学基盤教育院編『スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る！』山形大学出版会、2010年1月

(2) 教育、地域貢献等の活動

平成21年度の担当授業の紹介

教養教育科目

「生活の中の経済学」（経済学）前・後期

「Jリーグと地域社会」（教養セミナー）

他の教員との共同で担当する教養教育科目

「現代社会の諸問題」（1回担当）

専門教育科目

「日本経済論」前・後期

「地域経済論」後期

「日本経済論演習」 通年（卒論指導も含む）

オムニバス科目（他の教員と共同で担当）の専門教育科目

「公務員対策セミナー」 運営事務局担当。講義，集団討論演習，論文演習担当（計 6 回）

「総合政策講座」（公共政策）：1 回担当

「総合政策講座」（経済・経営）：1 回担当

大学院

「日本産業構造分析特論」

「日本産業構造分析特別演習」

「特別研究」

「特別研究」

地域貢献活動（審議会委員，講義担当等）

山形県職業能力開発審議会会長

山形県労働委員会公益委員会長代理

山形県建築審査会委員

山形市地産地消の店認定委員会委員長

J1 元気プロジェクト会議（会長代理）

職業訓練法人の望ましい施設のあり方等に関する外部有識者会議委員

公開講座等

もてなし塾講義「観光地域づくりとモンテディオ山形 課題と展望」（2010 年 1 月 19 日）

出張講義：

愛知県立豊田北高等学校（11 月 19 日）「経済学の面白さ - 円とドルの歴史から」

(3) 当該年度の研究・教育活動に関するコメント（200 字以内）

研究面では，世界同時不況という転換点にたつ日本経済と地域経済の分析を行い，前者は共同研究の著書，後者は『山形県の社会経済・2009 年年報第 22 号』に発表した。また，平成 22 年度開講の基盤教育の初年次導入科目であるスタートアップセミナーの共通テキスト『なせば成る！』の編集および執筆を行った。また教育面では前年度に引き続き公務員対策セミナーを企画・運営責任者として担当した。

戸室 健作

(1) 研究成果

[論文]

・戸室健作「間接雇用という働き方・働かせ方」黒田兼一・守屋貴司・今村寛治編

『(シリーズ 現代を読む経営学 第 3 巻) 人間らしい「働き方」「働かせ方」 人事労務管理の今とこれから』ミネルヴァ書房，2009 年 4 月，31-54 頁。

・戸室健作「請負労働の実態と請負労働者像 孤立化と地域ネットワーク」中西新太郎・高山智樹編『ノンエリート青年の社会空間 働くこと，生きること，「大人になる」ということ』大月書店，2009 年 9 月，227-268 頁。

(2) 教育，地域連携等の活動

[山形大学における講義・演習など]

・教養教育科目：経済と社会

・専門教育科目：社会政策論，社会保障論，社会政策論演習

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

平成 20 年度 11 月に山形大学に赴任し，平成 21 年度は山形大学の授業を本格的に行う年度となっ

た。そのため授業準備に多くの時間を費やした。論文については、派遣労働に対する自分の考えを公刊できた。また、請負労働者のネットワークを労働内容と関連させてまとめた論文も公刊できた。

中島 宏

(1) 研究成果

【研究報告】

- ・「自衛隊イラク派遣違憲訴訟」(2009年4月, 東北大学公法判例研究会)
- ・「フランスにおける病院の非宗教性」(2009年11月, 慶應大学フランス公法研究会)

【論文】

- ・「フランスにおける輸血拒否と患者の権利」宗教法 28号 39~56頁 (2009年9月)
- ・「フランスにおける病院の非宗教性」憲法理論研究会編『憲法理論叢書 17 憲法学の最先端』131~143頁 (2009年10月, 敬文堂)

【判例評釈】

- ・「自衛隊イラク派遣違憲判決 - 名古屋高裁 2008年(平成20年)4月17日判決」山形大学法政論叢 46号 1~15頁 (2009年10月)

【六法】

- ・園部逸夫・大森政輔(編集代表)『ぎょうせい 現行六法』第一巻・憲法 19・20・23条担当 (2010年3月, ぎょうせい)

(2) 教育, 地域連携等の活動

【教育】

- ・専門科目: 憲法, 比較憲法, 憲法演習, 人文学部公務員講座
- ・教養科目: 日本国憲法

【地域連携】

- ・山形市個人情報保護制度運営審議会委員, 天童市情報公開・個人情報保護審査会委員
- ・出前講義: 佐野女子高校, 日立北高校 (共に6月)
- ・研究室訪問: 新庄北高校 (8月)
- ・平成21年度教員免許更新講習「現代社会と人権」(8月)

(3) 平成21年度の研究・教育活動に関するコメント

教育面では、初めて担当する憲法 や比較憲法の準備に時間を費やしつつ、6月は遠方への出張講義が2回、8月は教員免許更新講習と研究室訪問、3月は入試業務と公務員講座の担当がそれぞれ重なり、充実した月となった。研究面では、論文等を公表した他、研究報告や六法の編集協力を行う機会に恵まれた。

行方 久生

(1) 研究成果

【論文等】

- 「道州制の論点と税財政問題」(『自治と分権』09年4月, P82~P95)
- 「道州制・地方分権改革と地方自治のゆくえ」(シンポジウム, 『自治と分権』09年4月, P23~P54)
- 「国家公務員10%削減の合理化案 7月中にも閣議決定」(日経BPオンライン, 09年6月)
- 「構造改革の転換点と運動の課題 - 国家・自治体・社会の転換」(『国公労調査時報』09年9月, P21~P33)
- 「鼎談: 歴史的転換点に立つ新自由主義と日本の進路」(永山利和・晴山一穂, 『自治と分権』09年)

10 月, P24 ~ P43)

「山形県財政と今後の課題について」(『山形県の社会経済 2009 年』09 年 12 月, 山形県経済社会研究所, P20 ~ P36)

「鼎談: 民主党政権の動向と新自由主義の転換点 (渡辺治・後藤道夫, 『自治と分権』10 年 1 月, P22 ~ P56)

【研究発表等】

「地方自治・地方公務員をめぐる情勢スケッチ」(09 年 6 月, 公務員人事・給与研究会)

「経済・財政から見た道州制と地方分権」(09 年 6 月, 地方分権研究会)

「自治体市場化・民間化の現状と反撃の視点」(09 年 7 月, 自治体学校)

「地域主権論と大都市制度」(09 年 8 月, 大都市制度研究会)

「山形県財政と市町村合併(鶴岡市)事例研究」(09 年 11 月, 地方財政研究会)

【書評等】

藤倉肇夕張市長へのインタビュー (『自治と分権』09 年 7 月, P4 ~ P23)

伊藤周平 『後期高齢者医療制度』(平凡社新書), (『自治と分権』09 年 4 月, P96 ~ P107)

阿部彩 『子どもの貧困 日本不公平を考える』(岩波新書), (『自治と分権』09 年 7 月, P97 ~ 108)

堤未果 『ルポ貧困大国アメリカ』(岩波新書), (『自治と分権』10 年 1 月, P86 ~ P96)

(2) 教育, 地域連携等の活動

【教育活動】

地方財政論, 自治体論, 地方財政論演習(学部)

公務員制度論, 総合講座 分担(教養教育)

地方財政特論(大学院)

公務員対策セミナーなど分担

2009 年度教員免許更新講習(日本経済の現状と貧困・格差) 09 年 8 月

【地域連携活動等】

朝日新聞(山形県財政問題)取材協力

Nikkei BP(公務員賃金の解説)

山形県議会, 山形県県民講座をはじめ, 地方財政, 労働経済, 地域経済問題等について, 各地の住民・団体の講演活動, 学習, 調査活動への協力など 40 数回実施

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

道州制における地方税財政の再編について研究を始めていたが, 年度の途中で政権交代が行われ, 民主党政権の地方税財政構想及び道州制構想の研究に進んだ。この 1 年間で, 経済問題ではサブプライムからリーマンショックへと事態が進み, 経済学主流派理論の「破綻」が様々な局面で見られることから, 財政については, ベーシックな研究を再開した。

自治体の調査は, 沖縄を中心にして 10 回程度行った。個別自治体の動向と全国的な制度再編の動向を並行して研究することが出来た。

教育活動においては, はじめての「教員免許更新講習」を担当した。県内の高校の実態や教師の苦勞に接して, お互いに得るものが大きかったと思われる。

西岡 正樹

(1) 研究成果

なし。

(2) 教育・地域連携等の活動

東北大学法科大学院助教として、法科大学院生に対する春期補習ゼミ「刑法」(平成22年3月)等担当。

東北大学法学部基幹講義「法学入門」(後期・オムニバス形式)担当。

(3) 平成21年度の研究・教育活動に関するコメント

累犯加重規定に関する研究をスタートさせたが、本年度における当該研究の成果はない。

西平 直史

(1) 研究成果

1. 西平：訪日外国人旅行者誘客戦略の一考察 - 大分県別府市と由布市を比較して - ; 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要, 第6号, 27/33 (2009)
2. 西平：松山市の中心市街地の現状と活性化のための取り組み ; 山形大学紀要 (社会科学), 40-1 97/105 (2009)

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ・教育
学部 経営システム, 応用情報処理, 情報・システム論演習
教養 情報処理
大学院 経営システム特論
- ・地域連携等の活動
「山形仙台圏交流研究会」のメンバー
蔵王温泉外国人宿泊統計の数表作成

(3) 平成21年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では、山形大学まちづくり研究所の研究である中心市街地活性化に関する研究を進め、松山市の実態調査に関する論文をまとめた。また、山形仙台圏交流研究会の研究の一部である訪日外国人誘客戦略についての調査も行い、その結果を論文にまとめた。

教育面では経営システムや情報処理を担当した。

野田 英雄

(1) 研究成果

[査読つき論文]

1. Noda, H. and K. Kyo, "Regional Analysis of the Japanese Economy Based on Bayesian Modeling," *Transactions of the Institute of Systems, Control and Information Engineers*, 54 (2), pp. 19-28, February 2010.
2. Noda, H. and K. Kyo, "Bayesian Estimation of the CES Production Function with a Time-Varying Efficiency Parameter," *Empirical Economics Letters*, 8 (10), pp. 949-960, October 2009.
3. Noda, H. and K. Kyo, "Bayesian Methods for TFP Analysis of a Multi-Region Economy with Dynamic Structure and Application to Japan," *Journal of Economic Research*, 14 (2), pp. 151-195, August 2009.

[ディスカッション・ペーパー]

1. Noda, H. and K. Kyo, "Accounting for Economic Growth in Japan and the United States:

A Bayesian Approach,” Yamagata University FLSS Discussion Paper Series, No. 2009-E03, June 2009.

[翻訳]

1. エルハナン・ヘルプマン[著], 大住圭介, 池下研一郎, 野田英雄, 伊ヶ崎大理[訳]『経済成長のミステリー』九州大学出版会, 2009年6月.

[学会発表]

1. Noda, H. and K. Kyo, “Bayesian Methods for TFP Analysis via a Dynamic Production Function with Application to China and Taiwan,” The Third All China Economics (ACE) International Conference, December 2009, City University of Hong Kong, China.
2. Noda, H. and K. Kyo, “Bayesian Analysis of Sources of Sectoral Growth in Post-Reform China,” The Fifth International Conference on Information, November 2009, Kyoto University, Japan.
3. 野田英雄・姜興起 “Another Look at the Productivity Performance of the Taiwanese Economy,” 日本地域学会第 46 回年次大会, 2009年10月, 広島大学.
4. 野田英雄・姜興起 “Sources of Economic Growth in Japan and the United States,” 日本経済政策学会第 66 回 (2009 年度) 全国大会, 2009年5月, 東北学院大学.

(2) 教育, 地域連携等の活動

[学内担当講義]

マクロ経済学, 応用マクロ経済学, マクロ経済学演習, 総合講座, 経済学の思考法入門, 経済モデル解析入門

[出張講義]

「経済学の基礎を学ぼう」福島県立葵高等学校 (2009年6月)

[地域連携活動]

山形県経済動向研究会メンバー, 山形・仙台圏交流研究会メンバー

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究活動については, 科研費の若手研究 (B) (代表者) と基盤研究 (C) (分担者) の応募課題「少子高齢化社会におけるイノベーション政策と持続的成長」, 「ベイズ型統計モデルに基づく経済成長の要因分析法の開発とその応用」を中心に取り組んだ。

教育活動については, 上記科目の講義・演習に従事し, また, 福島県立葵高等学校において経済学入門の出張講義を行った。

藤田 稔

(1) 研究成果

「ライセンス契約に付された非係争条項が不当な拘束条件付取引に該当するとされた事例」速報判例解説第 4 号 231 - 234 頁

「2008 判例回顧と展望 経済法」法律時報第 81 巻 7 号 (6 月臨時増刊号) 223 - 231 頁 (2009 年 6 月)

「公正競争阻害性の三つの側面の総合的評価 結合取引・バンドル割引を中心に」日本経済法学会年報第 30 号 37 - 52 頁 (2009 年 9 月)

[学会報告]

「不公正な取引方法規制の再検討 - 公正競争阻害性の三つの側面の総合的評価」平成 22 年度日本経済法学会 (2009 年 10 月 17 日, 法政大学)

(2) 教育, 地域連携等の活動

「経済法 1」「知的財産法」「経済法演習」「法的なものの考え方と知的財産権 (法学)」を担当。

(その他, 東北学院大学で, 非常勤講師を務めた。)

山形労働局で個別労働紛争調整委員として, 労働紛争の解決のあっせんを行った。

独占禁止政策協力委員として, 独占禁止政策のあり方について, 公正取引委員会に対して, 意見を述べた。

山形県弁護士会綱紀委員会委員として, 弁護士倫理の維持に協力した。

日本経済法学会理事として, 学会の運営に従事した。

東北経済法研究会で座長として研究を行った。

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

日本経済法学会大会のシンポジウムで報告者を務めたが, これまでの研究成果を発展させることができた。

伏見 和史

(1) 研究成果

論文「企業活動とコンプライアンス」 山形大学 法政論叢 44・45 合併号

(2) 教育, 地域連携等の活動

* 下記の授業を受け持ち担当した。

「企業活動の法律知識」(全学 1 年生対象)

「国際取引法」(法経政策学科 3・4 年生対象)

「国際取引法演習」(法経政策学科 3・4 年生対象)

「(法律) 基礎演習」(法経政策学科 1 年生対象)

「(法律) 専門基礎演習」(法経政策学科 2 年生対象)

「法的考え方入門」(全学 1 年生対象)

「国際取引法特論」(社会システム研究科院生対象)

「国際取引法特別演習」(社会システム研究科院生対象)

「国際契約論」(工学部大学院 MOT 院生対象)

* 地域連携のための活動は下記の通りであった。

1) NPO 法人「プロネット」の会員として弁護士, 会計士, 司法書士, 税理士, 調査士等とともに山形県の経済活動への助言

2) 「ジェトロ山形」「ジェトロ盛岡」「ジェトロ埼玉」の会員のために国際ビジネスの注意点に関するセミナー, 個別案件へのアドバイス

3) 山形県「入札監視委員会」の委員として県の入札案件に関してのチェック機能を果たした。

4) 山形県「知的財産権管理審査委員会」の委員長として県が保有する知的財産権の維持管理, 県が新規に保有する

知的財産権の登録申請等に関してのチェック機能を果たした。

3) (財) 山形県産業技術振興機構が保有する産業財産権の活用に関する検討会議委員として寄与した。

*進路指導委員として、学生のインターンシップ研修にあたっての各種アドバイスをを行い、また就職活動支援の一環として民間企業を多数訪問して山形大学の学生の採用を働きかけた。

(3) 平成 22 年度の研究・教育活動に関するコメント

山大学生の傾向として地元志向が強い。一方、21 世紀は経済・社会のグローバル化が一層進み、好むと好まざるとにかかわらず世界に目を向けた取り組みが不可避である。したがって、学生へのアプローチにおいて、地域をしっかりと見据える「蟻の目」と全体を隅々まで見渡す「鳥の目」との双方をもって勉強し、生活することの必要性・重要性を語っていきたい。

洪 慈乙

(1) 研究成果

- ・「包括利益計算書の制度化に学ぶ---会計理論の発想の転換をめざして---」,
『山形大学人文学部研究年報』第 7 号, 平成 22 年 3 月, pp. 85-99.

(2) 教育, 地域連携等の活動

学部担当授業

- ・専門科目: 会计学, 財務会計, 会计学演習, 基礎演習
- ・教養教育: 現代社会と企業会計

地域連携

- ・出張講義: 仙台聖和学園高等学校
- ・山形仙台圏交流研究会およびまちづくり研究会への参加

松本 邦彦

(1) 研究成果

- 「国際連盟重視外交の挫折と国際法学者たちの苦悩」
『山形学研究』7 号 (2010 年 1 月) 掲載 (008-014 頁)

(2) 教育, 地域連携等の活動

- (公開講座)「国際連盟重視外交の挫折と国際法学者たちの苦悩」
2009 年 10 月 / 山形大学都市・地域学研究所公開講座 / 山辺町にて。

人文学部から補助を受け、山崎彰先生(人間文化学科)との共同研究プロジェクト「山形ドキュメンタリー映画祭ライブラリーの教育・研究利用のための調査」をおこない、2009 年秋に「現代若者編」作品案内を刊行した。

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

多文化共生論について考察を進める一方、山形県出身の安達峰一郎について研究会をもうけて調査と研究を進めています。いずれもまだ概論的なところにとどまっていますので、確としたテーマを定めていきたいところです。

丸山 政己

記載項目

(1) 研究成果

[学術論文]

- ・丸山政己「国連安全保障理事会に対する立憲的アプローチの試み 予備的考察」『山形大学紀要 (社会科学)』第40巻第1号, 2009年7月, 33-63頁

[その他]

- ・丸山政己「安達峰一郎と国際裁判」『山形大学都市地域学研究所公開講座山形の魅力再発見パート7報告集』2010年1月, 15-21頁

(2) 教育, 地域連携等の活動

[教育]

- ・担当科目: 国際法, 国際人権法, 国際法演習, 国際連合について考える (教養セミナー)
国際組織法特論, 国際組織法特別演習 (大学院)
- ・学部国際交流委員として, 「異文化間コミュニケーション実習 (於, 韓国全南大学校)」参加の学生を引率した。
- ・集中講義: 国際法 (城西国際大学)

[地域連携等]

- ・山形大学都市地域学研究所公開講座「安達峰一郎と国際裁判」2009年10月 (於山辺町)
- ・新庄北高校「研究室訪問」2組受入れ (「世界各国の少年兵の未来」「商品としての戦力 (いわゆる戦争請負会社について)」)

(3) 平成21年度の研究・教育活動に関するコメント

実質的に赴任1年目であり, 授業準備に追われた感が否めないが, 研究面においても一応の成果を発表できた。この間, 公刊は次年度になるが安保理の狙い撃ち制裁に関する事例の検討を進め, 国連安全保障理事会と自由権規約委員会の関係と題する論文を作成した。教育面においても, 改善すべき点はあるが, つつがなく講義を終えることができた。様々な支援・アドバイスをくださった同僚の先生方のおかげである。

安田 均

(1) 研究成果

A. 学会・研究会報告

- ・「労働の種差性と補完性」第35回仙台経済研究会 (09.08.23, 東北大学経済学部)

B. 著書・論文

- ・「労働の同質性と種差性」『山形大学紀要 (社会科学編)』40-2 (10.2)

(2) 教育, 地域連携等の活動

A. 講義

経済原論 (4単位), 市場と組織 (2単位), 教養「教養セミナー (格差を考える)」(2単位), 「市場経済」(2単位), 学部共通科目「地域社会論」(2単位, 非常勤講師の紹介, 毎回のレポート及び単位評価担当)

公務員講座 (春休み, 講義1コマ, 論作文1コマ), 学部共通科目「キャリア・ガイダンス」で1コマ担当。

B. ゼミ

経済原論演習 (4単位)

C. 合同ゼミへの参加

- ・東北学院大, 宮城学院女子大との「三大学合同ゼミ」

第 16 回「婚活」(宮城大学女子大学, 7 月 18 日), 第 17 回「はびこる我が者主義」(東北学院大学, 11 月 28 日)

D. 地域連携

- ・解説記事「経済指標と解説」(連合山形「春季生活闘争方針」参考資料の H, 2010 年 2 月)
- ・調査記事「山形県のコミュニティビジネス」(山形県経済社会研究所『山形県の社会経済・2009 年』, 2009. 12)のうち大場組(最上町), レインボープラン(長井町), 「のぞみの園」(鶴岡市)を担当。
- ・人文学部と山形県村山総合支庁との共同研究「山形・仙台圏交流研究会」に毎月参加。・山形県社会経済研究所主催「県政フォーラム」(大手門パルス, 5 月 21 日)にてコーディネーター

(3) 平成 21 年度の研究・教育活動に関するコメント

現在, すべての講義科目においてパワーポイントを用いて講述した後, その配付資料およびまとめプリントによって復習するというスタイルをとっている。学生からはわかりやすいとの評価を得ているので, 今後も改良を重ねつつ続けたい。教養科目でも前期「教養セミナー」ではテキストを替えて以来, わかりやすいとの評価を得た。後期教養科目は前年度より入門的な内容に変えた。テーマとするタイトルを「賃金の経済学」から「市場経済」に変え, 最初の 3, 4 回のみ資本主義経済の基本的な仕組みを解説し, 残りは市場競争の軌轍を修復するセーフティ・ネット(年金, 医療保険, 雇用保険)の仕組みと現状の紹介に当てることにした。その際, 講述と新聞記事読み取りを交互に行ない, 現在, セーフティネットから漏れている人々が増え, 格差問題, 貧困問題が浮上している点に注意を喚起した。専門科目, 教養科目のすべてにおいてオンライン上の修学支援システム Blackboard を用いた。主な利用形態は講義資料のアップロード, オンラインテスト, 成績の逐次通知(毎回のオンラインテスト得点, 期末試験の成績, 単位評価)である。オンラインテストの利用に伴い, 単位評価における配点を, 講義テーマ毎の, 択一式復習テスト 5-6 割と論述式の期末試験 4-5 割に変えた。つまり, 専門知識を踏まえた論述式答案の作成に対して基本的な知識の習得の比重を上げ, 日常の学習を重視するようにした。Blackboard による成績の逐次通知は好評なので今後も続けたい。

年 2 回開催の合同ゼミは同じ経済学でも専攻や関心の異なる学生と交流する貴重な機会なので今後も参加したい。特に主催校となった場合には, 専攻の異なる学生が議論に参加しやすいようなテーマの解説や論点設定はどのようなものか, ゼミ生が自分たちの関心を検討し直す良い機会でもある。学外団体から要請される経済指標等の解説記事の執筆, あるいは共同調査への参加は研究の間口を広げてくれるので, 時間の許す限り引受けたい。

山口 昌樹

(1) 研究成果

論文

- ・「中国銀行業への戦略投資家の出資 - 経営効率は改善したか? -」『証券経済研究』第 66 号, pp. 71-89, 日本証券経済研究所

研究ノート

- ・「通貨危機以前の韓国向けシンジケート・ローン - 幹事行国籍と貸出行動 -」『アジア経済』2009 年 10 月号, pp. 27-44 アジア経済研究所

(2) 教育, 地域貢献等の活動

教育

- ・担当授業: 日本経済の論点(教養セミナー), 金融論, 国際金融論, 証券経済論, 国際金融論演習, 国際金融論特論, 国際金融論特別演習, 国際経済法務特別研究
- ・「キャリア形成論」の講師: グローバル競争を生きる(2009 年 12 月)

地域貢献

- ・人文学部公開講座「分かりやすいお金と経済の話」第4回の講師 (2009年9月)
- ・出前講義：岩手県立宮古高校 (2009年9月)
- ・TUY イブニングニュースでのコメント / 荘内銀行と北都銀行との経営統合について (2009年9月)

(3) 平成21年度の研究・教育活動に関するコメント

ひたすら研究に打ち込むことができた。人文学部の教職員の方々に感謝したい。